

厚生労働科学研究費補助金

平成 21 年・平成 22 年度 食品の安心・安全確保推進研究事業

平成 23 年度 食品の安全確保推進研究事業

食物アレルギー

ひやりはつと

事例集

2012

FOOD ALLERGY

「食物アレルギー ひやりはっと事例集 2012」

はじめに

この度、平成 21-22 年度厚生労働科学研究費補助金（食品の安心・安全確保推進研究事業）、平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）「科学的知見に基づく食物アレルギー患者の安全管理と QOL 向上に関する研究（H21-食品-一般-004）」の研究成果物の一つとして「食物アレルギー ひやりはっと事例集 2012」を発刊することができました。第 1 版は平成 19 年に開催された第 44 回日本小児アレルギー学会（会長；宇理須厚雄）の記念誌として出版されました。実に、5 年ぶりの改訂です。

ここに集まった事例は、患者さんやそのご家族の方に、自分たちが経験された誤食などの体験を質問用紙やインターネットのホームページに掲げたアンケートに直接記入して頂いたものです。

医療の現場では、診療の中で起きたインシデントやアクシデントを登録し、集計解析することによって、大きな事故に繋がらないように予防対策をとるシステムがあります。これの食物アレルギー版と言えます。

食物アレルギーにおいては、原因食品を誤食することは、アナフィラキシーという重篤なアレルギー症状に結びつくことがあるだけではなく、非常に稀なことではありますが、死亡することもあります。

できるだけ多くの事例を集め、これを解析し、家庭、園・学校など場面ごとの食物アレルギー対応マニュアルに反映させていくことがこの事例収集作業の主たる目的です。

これまでに、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（平成 20 年；日本学校保健会）」、「ぜん息予防のための食物アレルギー基礎知識（平成 22 年；環境再生保全機構）」、「よくわかるやさしく作れるアレルギー対応給食（平成 23 年；NPO 法人アレルギー支援ネットワーク）」、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（平成 23 年；厚生労働省）」、「食物アレルギー診療ガイドライン 2012（平成 23 年；日本小児アレルギー学会）」など場面ごとの対応策が記載された書籍は数多く出版されています。

食物アレルギー事件事例を収集して、これらのガイドラインやマニュアルに反映できれば、これらはよりブラッシュアップされ、誤食事故が減り、食物アレルギー患者さんの安全確保に貢献できると期待しています。

今回事例を収集していて、気づいた点があります。それは、このような事例の収集作業を継続的に行い、問題事例をその都度解析する体制ができるならば、食物アレルギーの有害事象の中で、放置すると大きな事故に拡大するリスクを抱えた事例を早期に見つけ出し、迅速に対処できる可能性があることです。このような食物アレルギー有害事象モニタリングシステムの構築へと発展できればと願います。

旧バージョンに追加した内容として、大震災で発生した事例と対策があります。平成 7 年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災と平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災された方から、貴重な体験談や誤食事件事例を頂くことができました。食物アレルギーの患者さんやそのご家族は震災にあわられて食料確保など大変ご苦労されたことがわかりました。お困りになられるだろうと予想されたこととはいえ、そのリアリティあるご報告には、改めて胸を痛めました。今回の経験を生かすべく、事例集に加えさせて頂きました。今後の災害のための準備や救援活動に役立てて頂ければ幸いです。

最後に、事例収集のためにホームページを快く提供して頂き、さらには、アンケートをプログラムして頂いた NPO 法人アレルギー支援ネットワークの関係各位に心から深謝申し上げます。

平成 24 年 1 月 3 日

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 小児科

宇理須 厚雄

食物アレルギー ひやりはつと事例集 2012

目次

各場面に共通する基礎知識	6
1、症状を誘発するアレルゲン量	6
アレルギーを誘発する量には個人差があります（事例 1）	
ごくわずかな量で症状を起こす子もいます（事例 2-9）	
その子の体調によって誘発量が若干変わることもあります（事例 10）	
2、アレルゲン含有量とアレルギーの起きる原因	10
同種類の加工食品でもアレルゲン含有量には差があります（事例 11, 12）	
食物アレルゲンは接触や吸入でも起きます（事例 13-17）	
3、アレルギー検査	13
血液検査で陽性と判断されたすべての食品を除去すると...（事例 18）	
血液検査（IgE）の値の低い食品の安全性が高いとは限りません（事例 19）	
4、学童期以降になってから発症する食物アレルギーの特殊型	14
花粉症を合併する患者にみられる果物や野菜による口腔アレルギー症候群（事例 20, 21）	
運動で悪化するまたは運動後に誘発される食物アレルギー（事例 22, 23）	
5、治療	17
母乳を介する食物アレルギーの治療で気をつけることは（事例 24）	
牛乳アレルギーには、アレルギー用ミルクを使用してください（事例 25）	
治る年齢には個人差があります（事例 26）	
食べて治す治療を自分の判断だけで行うことは危険です（事例 27-30）	
6、誤食を防ぐための教育（自己管理能力を身につける）	21
年齢が大きくなったら自己管理能力を身につけさせましょう（事例 31）	
まとめ 各場面に共通する基礎知識	22
医薬品やアレルギー物質表示	24
1、医薬品、医薬部外品、化粧品	24
石鹸の使用によっておこるアレルギーがあります（事例 32, 33）	
牛乳や卵アレルギーでは避けた方がよい薬があります（事例 34-36）	
インフルエンザワクチン接種前に生卵を食べさせて確認する必要はありません（事例 37）	
2、食品表示	27
必ず毎回表示を確認しましょう（事例 38-42）	

- 出来れば複数の方が表示を確認しましょう（事例 43, 44）
- 食べ慣れた加工品でもリニューアルの可能性があることを知っておきましょう（事例 45）
- 製造ラインまで確認しましょう（事例 46）
- レストランや店頭販売に表示義務はありません（事例 47, 48）
- 総菜やばら売り、試食品に表示義務はありません（事例 49-51）
- 紛らわしい表示でもお子さんのアレルギーと関連のあるものは覚えるようにしましょう（事例 52, 53）

わかりにくい表示例の解説 34

まとめ 医薬品や加工食品のアレルギー物質表示 34

自宅（祖父母宅） 35

1、食品購入時（自宅および、よく行く祖父母宅） 35

よく行き来する祖父母宅の問題点（事例 54）

2、情報共有の不足 35

見た目がそっくりな代替え食に潜む問題点（事例 55, 56）

留守中に面倒を見てくれる人には、十分な情報を話しておかないと（事例 57, 58）

3、食品の整理整頓の不足 37

アレルギー食品や家族・兄弟などの食べ残しなど、そのままにしておくは大変です（事例 59-65）

まさか生ゴミのふたを開けるなんて...（事例 66）

4、食事時の配慮の不足 40

目を離れたすきに兄の食事に手を伸ばして...（事例 67）

5、極微量でも症状が出る子もいます 41

兄弟が食事中にくしゃみをしたら大変なことになりました（事例 68）

兄弟が食事中に食べながら熱っぽく話していたら...（事例 69）

クッキーを食べたお兄ちゃんがそばにいたら妹に異変が起きました（事例 70）

家族が手をよく洗わずに子供を抱いたらアレルギーが出ました（事例 71, 72）

まとめ 自宅（祖父母宅） 44

友人宅（友人との食事会） 45

友達の親子パーティーに参加したら、子供がおやつに手を出してしまって（事例 73）

お友達の家で提供された食事だったので、断れず（事例 74）

まとめ 友人宅（友人との食事会） 46

園・学校・施設	47
1、食物アレルギー知識不足による事例	47
食物アレルギーのことを知らないスタッフが起こした事例（事例 75, 76）	
2、情報共有不足による事例	47
スタッフ間での情報共有が不十分であった事例（事例 77, 78）	
スタッフと家族の情報共有の不足による事例（事例 79, 80）	
給食センターと施設間の情報交換が不足すると（事例 81）	
3、食事（給食・おやつ）メニューや食事中におきた事例	50
献立の確認は複数のひとが行ったほうがよい	
給食の献立（メニュー）に関する事故；メニュー誤りや事前チェック誤り（事例 82-84）	
食事中の観察を怠ると	
友達との給食・おやつに関する事故：触れる、食べる、子ども同士での交換（事例 85）	
代替食のお代わりがある場合、スタッフ全員が簡単に区別できるように（事例 86）	
共通編の1アレルギー量や2アレルギーに記載した事例も参照してください	
4、給食以外の学習活動の事例 給食やおやつの時間以外でも食物アレルギーが起こります	52
自由遊び時間に、アレルギーをひき起こしました（事例 87）	
お泊まり保育での事例です（事例 88）	
調理実習中に...（事例 89）	
まとめ 園、学校、託児所	55
外食（ホテル・レストラン）	57
1、利用する側の事前の確認不足	57
注文する前にアレルギーが入っているか確認しましょう（事例 90-93）	
2、食事を提供する側の問題	59
スタッフの食物アレルギーに関する知識不足（事例 94, 95）	
微量でも症状が誘発されるケースがあります（事例 96, 97）（共通編の記載を参照）	
スタッフ間での情報共有不足（事例 98, 99）	
まとめ 外食（ホテル・レストラン）	63
課外活動（塾、祭り、キャンプ）	64
以下、学校生活で食事と無関係と思われるところでもアクシデントが起こりえます	
1、学習塾（事例 100, 101）	64
2、お祭り（事例 102）	64
3、キャンプ（事例 103, 104）	65
まとめ キャンプ対策	67

旅行	69
機内食に関する食事について（事例 105, 106）	
まとめ 海外旅行（エピペン®の機内への持ち込みのための診断書）	69
震災時	72
災害時には類似した様々な問題が起きていました。こうした事例の中から代表的な症例を選び、他の症例との類似点をアレンジして事例として掲載させて頂きました。	
1、食品の入手が困難になる	72
販売店の食品在庫がなくなることに加え、交通機能マヒで支援物資が届きません（事例 106）	
また支援物資の中にはアレルギー対応食品は少ない	
2、誤食を起こしやすくなる	72
集団での共同生活を強いられ、除去食が作れない状況になります（事例 107）	
避難所生活では支給された食事の中から食べられそうなものを与えた（事例 108）	
3、いつもの薬が不足する	72
いつもの医療機関にかかれないので、手持ちの薬（内服薬・軟膏）がなくなりました	
4、合併するアトピー性皮膚炎、喘息が悪化する	72
軽症の気管支喘息で日ごろは薬などいらない程度であったので薬は準備してありませんでした（事例 107）	
断水のため体を洗えず、アトピー性皮膚炎が悪化し、軟膏や悪化した際に飲む内服薬も底をついてしまった例も見られました	
5、お子さんの情報が周りの人に十分伝わりません	73
一時的に親と離れ離れになってしまい、お子様のアレルギー情報が分からなくなっている例がありました。	
また周りから理不尽な対応をされた家族もみられました（事例 108）	
まとめ 震災対策	74
A、アレルギー患者がいる家庭が準備すると便利な物品や情報	75
B、食物アレルギー患者がいる家庭が準備すると便利な物品や情報	76

各場面に共通する基礎知識

1、症状誘発するアレルゲン量に関する基礎知識

アレルギーを誘発するアレルゲンの量には個人差があります

事例 1

これくらいは大丈夫よ、きっと...

年齢・性別 : 1歳 女児

アレルゲン : 卵、牛乳

原因 : カステラ

症状 : 全身じんま疹

経過 : それまでに3回、卵の二次製品を食べて症状が出たことがあったため、園には食物アレルギーの話はしてありました。しかし、幼稚園のおやつ時間に先生が「これくらいは大丈夫よ」とカステラを少量食べさせたとのことでした。5分くらいで、全身じんま疹がみられ、抗ヒスタミン薬の内服をしてから病院を受診しました。

解説 : 誘発する摂取量は、個人個人によって全く異なります。

対策 : 自己判断で安全に摂取できる量を決めることは避けましょう。医師に相談して下さい。

ごくわずかな量で症状を起こす子もいます

事例 2

コップに残っていたミルクで大変なことが...

年齢・性別 : 5歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 牛乳

症状 : じんま疹

経過 : 園のおやつ時に、他の子供が牛乳を入れて飲んだコップを洗ってから、うちの子のためにお茶を入れてくれたのですが、飲んだ後にじんま疹が出ました。手持ちの抗ヒスタミン薬の内服で落ちつきました。

解説 : コップに牛乳が残っていたためと思います。園の先生が極少量のミルクでもトラブルが起きることを十分認識しておらず、洗浄が不十分であったためと考えられます。

対策 : 間違っても飲まないようにするために、食物アレルギー児には専用の食器を使うこと。

事例 3

卵抜きで調理していたのに...

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : てんぷらの衣についた卵

症状 : アナフィラキシー
経過 : いつも除去食を出してくれるホテルで、てんぷらを食べた時にじんま疹、腹痛、冷汗が出てぐったりしました。すぐ手持ちのステロイド薬を飲ませ、病院を受診した時には症状は落ち着いていました。その後、ホテルに確認したところてんぷらの衣に卵が混ざったおそれがあることを知りました。

解説 : 卵抜きで料理はされていたのですが、うっかり他の料理で使用した調理箸を使用したため、てんぷらの衣に微量の卵が混入したものと考えられます。

対策 : このようなごくわずかな量でもアレルギーを起こす患者さんがいます。ごく微量のアレルゲンで症状を惹起するかどうか知っておくことは役に立ちます。特に微量でアナフィラキシーのような重篤な症状を起こしたことがある患者さんは注意が必要です。

事例 4

卵の調理した鍋を洗わずに...

年齢・性別 : 2歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : 調理器具に残っていた卵

症状 : アナフィラキシー

経過 : 旅行先で、皆と別料理を頼んであったにもかかわらず、食事中にショック症状を起こしました。直ちに救急車で病院へ行き治療を受けました。あとで、確認したところ、卵料理をした鍋を十分洗わずに使用していたことがわかりました。

解説 : 卵を使用した調理器具に残った極少量の卵でも重篤なアレルギー症状を起こす症例もあります。

対策 : 同上

事例 5

ジュースのノズルから牛乳が...

年齢・性別 : 3歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : ジュースに混入した微量のミルク

症状 : じんま疹

経過 : 注入口が共通タイプの自動販売機で、ジュースを買って飲んでいたら、口の周囲からじんま疹が出てきました。慌てて緊急時用の抗ヒスタミン薬を飲ませました。

解説 : ノズルが共通タイプの自動販売機では、前に購入されたコーヒーのミルクがノズルに残っている場合があります。この例では、ノズルに残った微量のミルクがジュースに混じってしまったことで症状が出たと思われます。

対策 : ノズルが共通タイプの自販機は使わない

事例 6

触っただけなら大丈夫と思ったのに...

年齢・性別 : 3歳 男児

アレルゲン : チーズ

原因 : チーズの包装

症状 : じんま疹、咳、喘鳴、ぐったり

経過 : 祖父は孫にチーズのアレルギーがあることは知っていました。自分が食べようとしたチーズの包装を孫がむきたがったので、触るだけなら大丈夫と思いむかせたところ、その触った手を口にもって行ってしまいました。

解説 : 食物アレルギーにも程度の差があり、重症な場合は触った手を舐めるだけで症状が出る場合があります。

対策 : アレルゲンとなるものを子供に持たせない。

事例 7

スプーンが一緒だったただけなのに...

年齢・性別 : 7歳 男児

アレルゲン : 煮魚

原因 : 魚を煮たときに使ったスプーン

症状 : 発赤、かゆみ、じんま疹、下痢、目の充血

経過 : 家族の煮魚のおつゆをすくったスプーンを、軽く水洗いして魚アレルギーの子供に使わせたら、食事を食べた数分後から目のかゆみとじんま疹、その後下痢の症状が出ました。

解説 : 原因食材に触れた食器や調理器具でも、洗いが不十分で残っていると、アレルギー症状を起こすことがあります。

対策 : 最初から専用の調理器具や食器を用意しておきましょう。また、できるだけアレルギーの強い子供にあわせた献立を考え、家族みんなで同じものを食べるようにするのがよいでしょう。

事例 8

同じ袋に入っていたただけなのに...

年齢・性別 : 4歳 女児

アレルゲン : ピーナッツ

症状 : 喘鳴、軽度チアノーゼ

経過 : 柿の種とピーナッツが一緒に入った袋から柿の種だけ食べたところ、突如、喘息のような症状(ゼーゼー・ヒューヒュー)と軽いチアノーゼが出てしまいました。

解説 : たとえピーナッツそのものを食べていなくても、粉末状で微量についているだけの量で、症状

が誘発される可能性があります。特にナッツ類はローストされるとアルゲン性が増すので、微量でも危険なので注意が必要です。

症例 9

入院中、本人は除去食を食べていたのに...

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 卵豆腐

症状 : じんま疹、喘鳴、腹痛、嘔吐

経過 : 卵アレルギー児が肺炎の治療で入院をしていました。二人部屋で仲良しになった同室の児が朝食に出た卵豆腐を食べた後に風船で遊んでおり、その風船を貸してもらい同じように口にくわえて膨らませて遊んでいたところ、1時間ぐらいすると、顔面から全身にじんま疹が広がり、腹痛とともに嘔吐し、喘鳴が認められるようになりました。入院中だったので、すぐ医師の診察を受けて抗ヒスタミン薬が投与され、気管支拡張剤の吸入をおこない症状は改善しました。

解説 : 口の周りに残っていた卵豆腐が風船を介して、アレルギー児の口に入ったことで、誤食が起きたと考えられます。食物アレルギーのない同室の児まで、アレルギー制限食とするわけにはいきません。入院中であっても、個室でなければ、集団生活をおくっているのです。アレルギー児が口にするものには、食物以外にも注意しなければならないことが、この事例でわかります。

対策 : この事例では、同室に、卵アレルギー児がおり、卵豆腐が朝食に出ていたので、医師、看護師、または付き添いの家族が、同室の児に食後、顔と口をしっかり洗わせることで事故はおきませんでした。あらゆる状況において、食物アレルギー児に関わるすべての人が、情報を共有し、口に入るものはもちろん、吸入や接触でもアレルギー症状がおこることも認識して、不安を抱かせることのないよう配慮し、注意を怠らないことが誤食事故の防止に必要です。

その子の体調によって誘発量が若干変わることがもあります

事例 10

少しなら大丈夫と思って...

年齢・性別 : 2歳 男児

アレルゲン : じゃがいも

原因 : ポテトチップス

症状 : 顔面の発赤と浮腫

経過 : その日は体調が悪くあまり食欲がなかった。じゃがいもアレルギーはあったが、ポテトチップス5枚程度は食べて症状がなかったので、今回も5枚与えたところ、食べて15分後に顔面の発赤と浮腫が出現しました。

解説 : 前回食べられたポテトチップス5枚でアレルギー症状がでてしまいました。アレルギーを誘発する摂取量は患者の体調で変わることがあります。

対策 : この例のように体調が悪いとアレルギーが起きやすくなる場合があります。
下痢、運動、入浴、鎮痛解熱剤、生理などが食物アレルギーを誘発しやすくなる要因です。

2、アレルゲン含有量やアレルギーの起きる原因

同種類の加工食品でもアレルゲン含有量には差があります

事例 11

このパンは大丈夫と思ったら...

年齢・性別 : 5歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : メロンパン

症状 : 口唇の腫れとじんま疹

経過 : 母親は「菓子パンくらいの鶏卵は大丈夫」と園に伝えていましたが、園のおやつにでたメロンパンで、口唇の腫れとじんま疹がでてきました

解説 : 母親は（少量の卵が使用してある）菓子パンは大丈夫だというつもりでいた。しかし提供されたメロンパンは、菓子パンであることには違いないが、通常の菓子パンに比し卵が増量してあることが問題だった。卵の含有量が多かったので症状が出た。

対策 : 菓子パンでも商品によって卵アレルゲン含有量に差があることを知っておきましょう。

事例 12

原材料が同じで似ている食品だからと...

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 小麦

原因 : そうめん

症状 : 顔面の発赤、咳

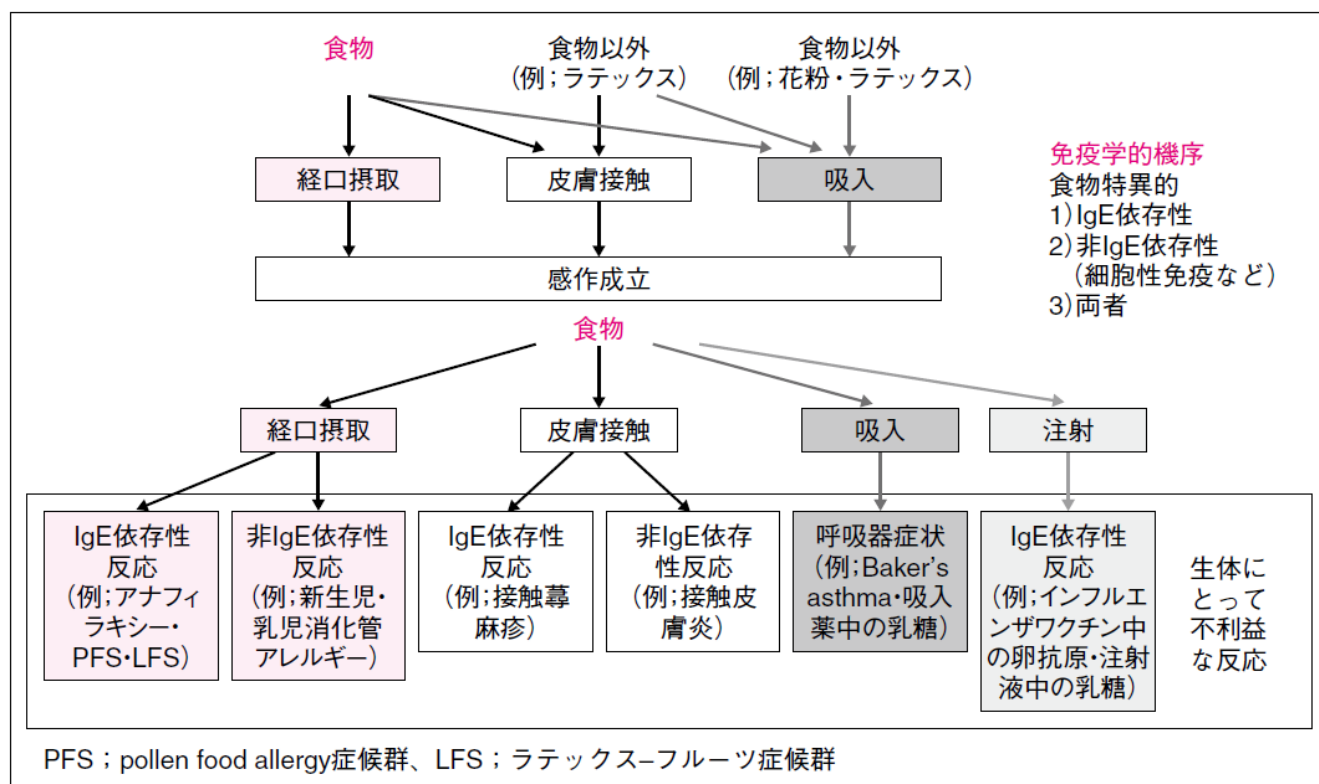
経過 : うどんを6本までは食べられるので、そうめんをあげてみることにしました。そうめんは細いので少し多めにあげてみたところ、食べてから20分ほどして顔面が赤くなり、咳込んでしまいました。40分ほどして症状は消失しました。後になって、そうめんは小麦タンパクの量が多いと知り、注意して与えなくてはならなかったと反省しました。

商品1個あたりに含まれる 卵タンパクの含有量	商品名
1,000 mg以上	メロンパン チョコチップメロンパン
100~1,000 mg	スイートブール ホワイトデニッシュショコラ マロン&マロン ミニスナックゴールド 薄皮クリームパン アップルパイ ナイススティック バターロール 薄皮チョコパン 高級つぶあん 薄皮ピーナッツパン
10~100 mg	コロネミルクチョコクリーム 薄皮つぶあんぱん 薄皮白あんぱん スナックスティック 黒糖入りテーブルロール レーズンバターロール シュガーロール カレーパン

解説 : 同じ原材料で作られていて、見た目が似たものでも、含まれるアレルゲンの量は異なります。
 対策 : 原因食物が少量しか食べられない場合、原因食物が含まれる類似の食品を安易に試食することは避けましょう。

食物アレルゲンは接触や吸入でも起こします

図：食物アレルギーの定義の説明です。これをみると食物アレルギーの感作経路は食べるだけでなく吸入や接触でも起こり得ます。また、皮膚接触、吸入、注射によっても食物アレルギー症状が誘発される場合もあります（図は食物アレルギー診療ガイドライン 2012 から引用）。



事例 13

紙袋に残っていた粉で喘息発作が...

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 大豆

原因 : 紙袋に残っていた大豆の粉

症状 : 喘息発作

経過 : 幼稚園で、大きな紙袋を使い、紙の服を作って着るといふ工作のときに喘息が起きました。

解説 : この紙袋は、大豆を入れるのに使っていたことが後でわかり、大豆の粉じんを吸い込んだ為に喘息発作が起きたことがわかりました。

対策 : 使用済み紙袋の以前の使用内容を確認する。これ以外にも米、そば粉、小麦粉などを扱った後の物品は使用しない。

事例 14

小麦ねんどは、小麦なんだよ！

年齢・性別 : 4歳 女児

アレルゲン : 小麦

原因 : 小麦粘土

症状 : じんま疹、結膜充血、眼瞼浮腫

経過 : 小麦アレルギーがあることは事前に園に伝えてあったのですが、小麦粘土の工作をしました。5分後に触った手からじんま疹が出現し、またその手で目をこすったため、結膜充血、眼瞼浮腫が起きました。抗ヒスタミン薬を飲ませ、手と目を洗い、ようやく落ち着きました。

解説 : 食物アレルギーでは、多くの患者で接触によるアレルギーを起こします。食べなければ大丈夫と思っていたため、このようなことが起きました。

対策 : 食物アレルギーは食べるだけでなく、皮膚や粘膜への接触でもアレルギー反応を起こします。特に目は出やすいので注意する。

事例 15

触った手で眼をこすってしまい...

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : ゆで卵の殻についていたと思われる卵

症状 : 眼球結膜の腫れ

経過 : 保育園の行事で、ゆで卵にシールを貼った。自宅に帰ってきてから、卵に穴が開いていたために、そこに指を入れてしまい、その指で目をこすったら眼球結膜が腫れてしまった。

解説 : ゆで卵に触れた手で白眼をこすってアレルギー症状が出た。

対策 : 皮膚に触れても大丈夫でも、眼の中などの粘膜に触れるとアレルギー症状が出る場合があり、アレルゲンが手に触れた場合はしっかり手を洗う必要がある。卵アレルギー児のいる園では卵の殻を利用した工作は避ける。

事例 16

肌着の素材にアレルゲンが...

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : カゼイン繊維を含む肌着

症状 : 肌着の触れた部分にじんま疹

経過 : 生後3か月頃から湿疹がひどくなりアトピー性皮膚炎と診断を受けました。完全母乳栄養でミルクを与えたことはなかったのですが、1歳の時に行ったアレルギー検査では牛乳、カゼインと

もに反応が出ていました。これまでは問題なく着ることができた肌着を着せたところ、肌着が接触していた部分にじんま疹が出てしまいました。繊維の素材を見てみるとカゼイン繊維と記載してありました。

解説 : カゼイン繊維の成分が皮膚を刺激して症状が出た可能性があると考えられます。

対策 : 牛乳アレルギーの患者は使用を避ける。

事例 17

卵のついたトングを触って...

年齢・性別 : 4歳 女児

アレルゲン : 卵

原因食品 : レストランでの食事

症状 : 目の周りの発赤

経過 : レストランでの食事の時、ビュッフェ形式であり、自由にとることができた。トングなどを子供が触り、その手で目の周りを触ったことで症状が出た。洗顔などをして、しばらくすると症状は改善した。

解説 : トングに卵がついていた。

対策 : アレルゲンがついている可能性がある食器などをさわった後は、速やかに手を洗う習慣をつける。

3、アレルギー検査

血液検査で陽性と判断されたすべての食品を除去する必要はありません

事例 18

血液検査の結果で、除去、除去といわれ続けて、体重が...

年齢・性別 : 11ヵ月 男児

アレルゲン : 牛乳、鶏卵、小麦

症状 : アトピー性皮膚炎

経過 : 生後3ヵ月ごろよりアトピー性皮膚炎と診断されました。アレルギーの検査をした項目は全て陽性だったので、医師から離乳食は1歳ごろから開始するようにと指導を受け、その後は民間療法で治療をしていました。皮膚の症状はある程度落ち着いたのですが、10ヵ月健診のとき体重増加不良、発達遅延を指摘されてしまいました。

解説 : 過度の食物除去療法による発育障害です。乳児において食物除去療法を行う場合は、特に代わりになる食物を積極的に検索して、成長、発達に影響の無いように十分に配慮する必要があります。

対策 : 血液検査で特異的IgE検査が陽性であっても食べられる場合があります。またこれまで食べられていた食品に対する特異的IgE陽性だった場合は、やめる必要があるかないかを主治医に相

談してから決めてください。もし疑わしい食品のすべてが検査でIgE陽性であった場合は、専門医に相談して食べられる食物を探してもらいましょう。もし、食べられるものがすぐ見つからない場合でも、専門医の正しい指導を受け、ケースによっては食物アレルギーの知識のある栄養士による栄養管理も必要です。母子手帳などにある成長曲線をつけて、発育の経過をきちんとみていくことは大変重要です。

また、食物アレルギーがある乳児でも離乳食の開始を遅らせる必要はありません。生後5～6か月頃が適切です。安全に食べることができる食品で栄養を確保して離乳食を進めていって下さい。

血液検査の値の低い食品の安全性が高いとは限りません

事例 19

うどんならいいかなと思い、試してみたら...

年齢・性別 : 2歳 女児

アレルゲン : 小麦

原因 : うどん

症状 : じんま疹

経過 : アトピー性皮膚炎で血液検査をしてもらい、卵、牛乳、大豆、米、小麦の特異的IgE抗体が陽性と判明し、低アレルゲン米と野菜のみの離乳食しか食べていませんでした。2歳の時、小麦の数値が一番低かったため、小麦から試してみようと思い、自宅で、うどんを食べさせたところ、じんま疹がでてしまいました。幸いにも、自宅で観察のみにて落ちつきました。

解説 : 数値が低ければ安全と思い、家族の判断だけで自宅で試してみたために、症状が出てしまいました。

対策 : アレルギー検査でIgEの数値が一番低い食品が、一番症状が出ないという認識は誤りです。負荷試験を行う時期については、必ず主治医またはアレルギー専門医とご相談ください。

4、学童期以降に発症することが多い食物アレルギーの特殊型

花粉症を合併する患者にみられることが多い果物や野菜の口腔アレルギー症候群

事例 20

いつも食べていたフルーツなのに...

年齢・性別 : 18歳 女性

アレルゲン : トマト

原因 : トマト

症状 : 口唇の刺激感、のどの痛み、

経過 : トマトを口にしたら、いつもとちがって、のどに少し違和感がありました。気にせず何個も食べ続けたら、のどがピリピリして呼吸しづらくなりました。後日、プリック・プリックテストでトマトにアレルギーがあることが証明されました。

解説 : 口腔アレルギー症候群 (Oral Allergy Syndrome : OAS) とよばれる食物アレルギーの特殊型

です。高学年の児童から成人の方に発症します。原因は果物や野菜であることが多いです。口やのどの症状だけで終わってしまうものが大部分ですが、一度に大量に摂取すると全身症状をきたす場合があります。

対策 : 花粉症があり果物を食べたときに口の中に違和感を生じたら、OASかもしれません。病院へ行って調べてもらいましょう。

事例 21

味噌、醤油、豆腐は食べていたのに...

年齢・性別 : 39歳 女性

アレルゲン : 大豆

原因 : 大豆乳

症状 : 口腔違和感、嘔吐、じんま疹

経過 : 味噌、醤油、豆腐などの大豆食品はふつうに摂取していましたが、高濃度大豆乳を飲んだところ、口腔違和感があり、その直後に全身にじんま疹が広がりました。

解説 : シラカンバ花粉症の主要抗原の一部が大豆の抗原と交差をおこし口腔アレルギー症候群 (OAS) を起こすことがあります。通常OASの症状は軽いのですが、この例のように全身症状をきたす場合もあります。原因はまだよくわかっていませんが、特に花粉症が重症であるほど症状は強い傾向があります。

対策 : 健康食品ブームで最近よく売られている大豆乳での事例です。花粉症 (シラカンバ花粉) がある場合、大豆乳を摂取する場合は少量摂取してみて、安全であれば徐々に増量してください。

運動で悪化するまたは運動後に誘発される食物アレルギー

事例 22

これまで小麦は大丈夫だったのに、どうして...

年齢・性別 : 12歳 男児

アレルゲン : 小麦

症状 : アナフィラキシー

経過 : これまで小麦は普通に食べていました。しかし、学校給食の後、授業でサッカーをしていたら、突然、顔面、頸部、躯幹にじんま疹が出現し、意識を失って病院へ連れて行かれました。

解説 : 今回の事例は食物依存性運動誘発アナフィラキシーです。給食で食べたスパゲティーが原因となり、その後サッカーをしたため症状が出現しました。

対策 : まず原因を確認しておくことが重要。原因がわかれば運動前に該当食品を避けるか、該当食品を食べた後約2時間運動を避けます。原因がわからなければ、給食後2時間は運動を避けることです。

事例 23

いったん軽快したはずの牛乳アレルギーが...

年齢・性別 : 14歳 男子

アレルゲン : 牛乳

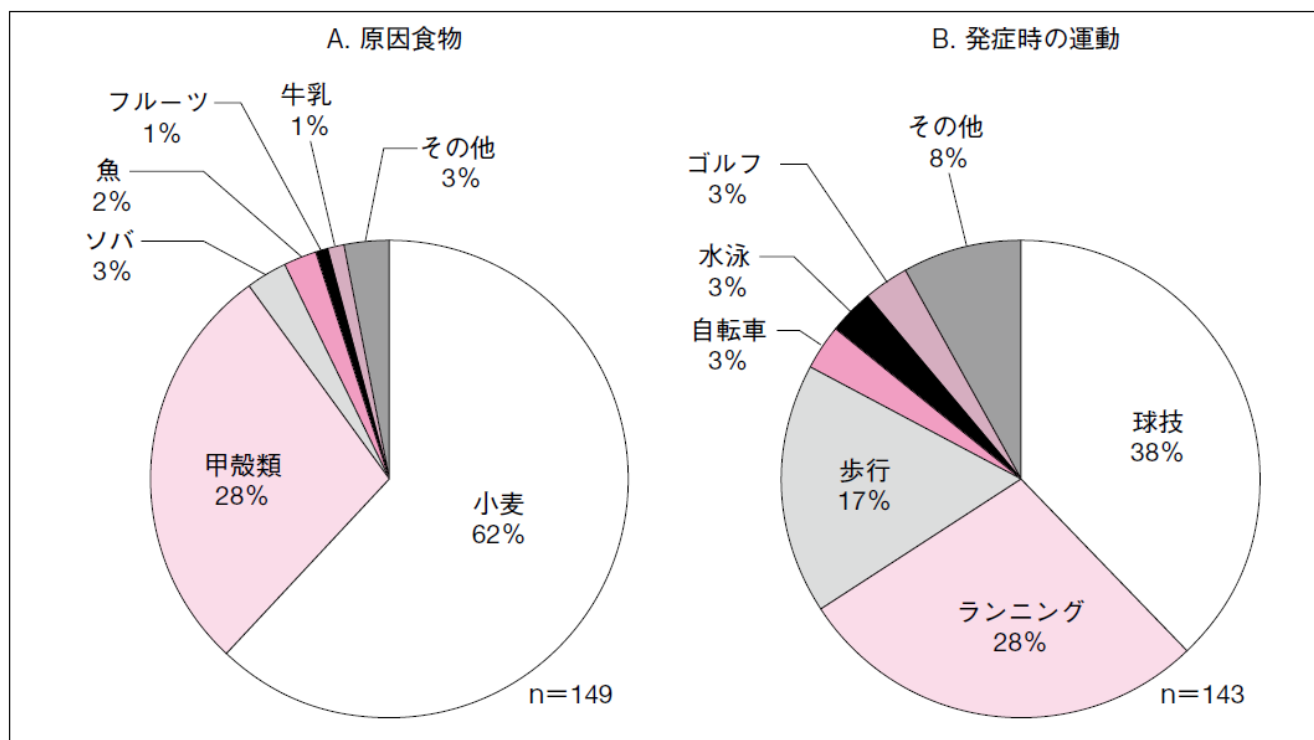
原因食品 : パン

症状 : 顔面の発赤

経過 : 幼少期に牛乳アレルギーがあり除去していたが5歳の時点で、経口負荷試験により陰性と確認され、その後牛乳を摂取しても問題はなかった。しかし、14歳になり牛乳が混ざっているパンを摂取、1時間後に野球部で練習をしていたら、顔面が真っ赤になった。手持ちの抗ヒスタミン薬を内服し、静かに横になっていたら症状は改善した。

解説 : 特定の食物摂取後に運動をする事でアレルギー症状が誘発される、「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」とよばれる食物アレルギーのひとつです。

対策 : 運動前には原因食物を食べない、または原因食物をたべた後は運動を控える。



図：我が国で報告された食物依存性運動誘発アナフィラキシーの原因食品と発症時の運動の割合（食物アレルギー診療ガイドライン 2012 から引用）

5、治療

母乳を介する食物アレルギーの治療で気をつけることは

事例 24

母乳栄養はアレルギーを起こさないって聞いていたのに...

年齢・性別 : 3ヵ月 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 母乳中の卵アレルゲン

症状 : アトピー性皮膚炎

経過 : 生後すぐより顔面に湿疹、2ヵ月のときアトピー性皮膚炎と診断され、スキンケアとステロイド外用薬で治療していました。母乳栄養にアレルギーはないといわれて食事制限せずに母乳栄養を続けていましたが、湿疹は徐々に悪化してきたため、アレルギー専門医で血液検査を行いました。卵白が原因アレルゲンとわかり、母親が卵製品の摂取を制限したところ、アトピー性皮膚炎が軽快していきました。

解説 : 乳児のアトピー性皮膚炎には食物アレルギーが関与しているものがあります。このような事例の場合、母親の食事から鶏卵とその加工品を除去して乳児の症状が改善するのみをみる除去試験と、母親に5~7日間毎日卵1個くらい食べてもらい、授乳後の乳児の症状の変化を観察する、いわゆる経母乳食物負荷試験で、母乳中に分泌されるアレルゲンが原因となっているかどうかを調べる必要があります。この症例では母親の母乳中のアレルゲンが疑われました。母親に対して卵の除去を行い症状が軽快し、その後、経母乳負荷試験によって症状が再燃したため診断が確定しました。

対策 : 母乳栄養児の中には、この症例のように母親への食物除去により症状が改善する場合があります。母親への制限食が必要な場合でも、その期間は短期間でよいことが多いので主治医やアレルギー専門医に相談してください。

牛乳アレルギーには、アレルギー用ミルクを使用してください

事例 25

粉ミルクを自宅で飲ませたら...

年齢・性別 : 10ヵ月 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 乳糖のみを除いたミルク

症状 : 喘鳴、じんま疹

経過 : アトピー性皮膚炎があり、卵、牛乳アレルギーと診断されました。10ヵ月まで母乳で育ててきましたが、母乳を中止して、ミルクに変更してみようと思いミルクを買ってきました。乳糖のみ除いたミルクを初めて自宅で飲ませたところ、喘鳴、顔の浮腫、じんま疹がみられ救急車で病院へ行き、入院となりました。

解説 : 乳糖のみを除いたミルクには牛乳成分が含まれています。

対策 : ミルクアレルギーには、アレルギー用ミルクを使用してください。

表：市販されているアレルギー用ミルク（食物アレルギー診療ガイドライン2012から引用）

商品名		ニューMA-1 (森永乳業)	ペプディエット (ビーンスターク・ スノー)	MA-mi (森永乳業)	ミルフィーHP (株式会社明治)	エレメンタル フォーミュラ (株式会社明治)
タンパク質 窒素源	カゼイン分解物	○	○	○		精製結晶 L-アミノ酸
	乳清分解物			○	○	
分子量	平均分子量	約300	800	約500	800~1,000	
	最大分子量	1,000	1,500	2,000	3,500	
乳糖		(-)	(-)	(±)	(-)	(-)
ビタミンK配合		○	○	○	○	○
タウリン強化配合		○	○	○	○	○
銅・亜鉛強化配合		○	○	○	○	○
標準調乳濃度		15%	14%	14%	14.5%	17%
風味		独特の風味	独特の風味	良好	良好	独特の風味

治る年齢には個人差があります

事例 26

「1歳半頃になると食べられるようになる。」と言われて...

年齢・性別 : 2歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 脱脂粉乳入りのマーガリン

症状 : 喘鳴、顔のむくみ

経過 : ミルクアレルギーがあり、ミルク除去をしていましたが、それまでかかっていた主治医には、「1歳半頃になると食べられるようになることが多い」と言われていたため、自宅で脱脂粉乳入りのマーガリンを使ったスコーンを食べさせてみました。ひと口食べさせて、20分後に喘鳴、顔のむくみがみられたため、直ぐ病院を受診しました。

解説 : 食物アレルギーが治る時期には、個人差があります。にもかかわらず、以前に言われたことを覚えていて、自己判断から自宅で食べさせてしまったため症状が出てしまいました。

対策 : 食物アレルギーは年齢とともに治ることが多いのですが、治る時期には個人差があります。除去を解除する時には自己判断せず、必ず主治医やアレルギー専門医と相談してください。

食べて治す治療を自分の判断だけで行うことは危険です

事例 27

食べて治す本を読んで...

年齢・性別 : 11歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 鶏卵を含む食品

症状 : 少量ずつ摂取することにより食物アレルギーが治るという本を読んで、少しずつ食べていますが、症状の出る時と出ない時があります。症状の程度も、さまざまです。

解説 : 自宅で、少量ずつ摂取することにより食物アレルギーを治す治療（経口免疫療法）は専門医の指導のもとに行わなければなりません。自宅で食べる安全量も負荷試験に基づいて決定されます。

事例 28

食べて治す治療を自宅で進めていたら...

年齢・性別 : 8歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : 加熱の不十分な卵

症状 : 口腔違和感、腹痛

経過 : 卵アレルギーでしたが加熱した鶏卵は問題なく食べられるになりました。少しずつ慣れさせてみようとして、自宅で加熱の条件を変えて温泉卵からどどん生に近い状態にして与えていました。今回、加熱が少なかったようで、食べているときから舌がピリピリし、のどに違和感、腹痛が現れました。2時間後全身に蚊に刺されたような発赤が出ました。経口ステロイド薬、抗ヒスタミン薬を服用し40分後におさまりました。

解説 : 加熱などの調理条件でアレルギー症状の出方は変わります。また本人の体調も症状の出やすさに影響します。

対策 : 食べて治す治療（経口免疫療法あるいは経口減感作療法）を行う場合、自宅での原因食品の増量や調理条件を変えることは危険です。進め方については食物アレルギーに精通した医師に相談して行って下さい。

事例 29

自宅でちょっと食べてみるのは、ちょっと...

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 卵

症状 : じんま疹、嘔吐

経過 : アトピー性皮膚炎があり、血液検査の結果に従って卵の除去食対応を行っていたが、自宅で少しずつ摂取してみると良いというかかりつけ医の指導で、ゆで卵を1/8個食べたら、摂取後2時間してから、嘔吐とじんま疹が出現した。

- 解説 : 徐々に摂取をしていくと食べられるようになることが多いことは事実ですが、アレルギーが誘発される危険と隣り合わせです。特に、初回摂取量は慎重に決定すること必要があります。
- 対策 : 自宅で安易に摂取を開始するのではなく、食物負荷試験のできる医療機関で、摂取可能量を定めることが好ましい。

事例 30

ちょっとずつ食べるのにも慎重に！

年齢・性別 : 3歳 女児

アレルゲン : 牛乳

症状 : 咽頭の違和感

経過 : もともと、アトピー性皮膚炎があり、血液検査で牛乳が陽性だったため、ずっと除去食対応をしていました。症状が出なければ少量ずつ食べてもいいと言われていたので、牛乳はちょっとずつ飲むようにしていました。いつもより、少し多い量を飲んだら、のどがかゆいと言い始め、しばらく様子を見ていたら治まりました。

解説 : 少しずつ摂取していくと、摂取できる量が増えていく場合も多いのですが、少し量が増えるだけで症状が強くなることもあり、注意が必要です。

対策 : アレルゲン摂取量を少しずつ増やしていく治療法を経口免疫療法（経口減感作療法）と呼びます。この治療はじんま疹のようなアレルギー症状や時にはアナフィラキシーのようなリスクを伴います。専門医の指導を受けながら行うことが必要です。また増量するタイミングや症状が出た時の対応法なども主治医とあらかじめ決めておく必要があります。

6、誤食を防ぐための教育（自己管理能力を身につける）

年齢が大きくなったら自己管理能力を身につけさせましょう

事例 31

年齢・性別 : 6歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 卵を使用したケーキ

症状 : じんま疹

経過 : 卵アレルギーがあり、母親の許可のないケーキは食べていけないと言われていたが、親戚の家へ1人で出かけ、誕生日のプレゼントをもらうだけの予定がサプライズに出された卵を使用したケーキを断り切れずに食べてしまい、全身にじんま疹が出て、救急外来を受診することになりました。本人も食べていけないと分かっていたのですが、「食べられない」ということを親戚の人に言い出せませんでした。

解説 : 食物が出ない予定だったので、母親も親戚の人には食物アレルギーのことは話してありませんでした。親戚の予期せぬ好意で、このような事例がおきてしまうこともあります。

対策 : 自己管理が十分にできない幼児では、ひとりで行動する場合、必ず児を取り巻く大人には食物アレルギーのことを知っておいてもらって下さい。

まとめ 各場面に共通する基礎知識

1、症状を誘発するアレルゲン量

誘発するアレルゲン量には、個人差があります。中には、ほんのわずかな量でも症状を起こす例もあります。また同一患者においても誘発量は体調によって若干変わりますので注意してください。

2、アレルゲン含有量やアレルギーの起きる原因

同種類の加工食品でも、アレルゲン含有量は 100 倍以上の差があります。また販売地域やリニューアルによってアレルゲン含有量が変化します。

また、食物アレルゲンは接触や吸入でも症状を起こすことも知っておきましょう。

3、アレルギー検査

血液検査で分かる抗原特異的 IgE 値で除去・解除を自己判断しないようにしましょう。

特異的 IgE 値は確定診断ではなくあくまでも参考値です。よって、IgE 検査が陽性と判断された全ての食品を除去する必要はありません。

IgE 値のみを比べて、低い食品の安全性が高いとは限りません。特異的 IgE 値は、アレルギー症状が出現する確率を示します。高い値の患者さんは、原因食品を食べた時に症状が出やすいと言えます。ただし、この出やすさは食品によっても異なります。自己判断するのではなく医師に相談して下さい。

食物アレルギーを同定する方法の中で最も信頼がおける検査は経口負荷試験です。しかし、経口負荷試験にはアナフィラキシーのような強い反応が起きることがあります。必ず医師の監視のもとで行ってください。

病院で行う原因アレルゲンを同定するための検査には、上記以外に皮膚ブリック試験や好塩基球ヒスタミン遊離試験があります。

4、学童期以降になってから発症する食物アレルギー特殊型

食物アレルギーは通常低年齢に発症し加齢に従って治っていきます。しかし、一部の食物アレルギーは、学童期以降に発症するものがあります。このタイプの代表例として主に花粉と果物や野菜との交差反応性でおこる口腔アレルギー症候群があります。

もう 1 つは、原因食品を食べただけでは何ともなく、または、運動だけでも何ともないのに、原因食品の摂取後に運動が組み合わさると起こる食物依存性運動誘発アナフィラキシーがあります。原因食品の多くは小麦や甲殻類です。食べただけでは起きないために気付かれにくいので注意しましょう。

5、治療

母乳を介したアレルギーもあります。母乳栄養でも疑わしい場合は専門医に相談してください。自己判断で除去をどんどん進めると危険です。

牛乳アレルギーで粉ミルクを使用する場合は、アレルギー用ミルクを使用してください。購入の際は間違えないように注意してください。

食べられるようになる時期には個人差があります。また食品によっても治りやすさに差があります。主治医に相談して、適切な時期に血液検査や必要ならば負荷試験を計画してもらいましょう。

一方、食べて治す治療（経口免疫療法あるいは経口減感作療法）は、まだ一般的な治療ではなく、研究段階のものです。必ず専門医のもとで行ってください。自宅で勝手に行うことは危険です。

6、**誤食を防ぐための教育**：年齢が大きくなったら自己管理能力を身につけさせましょう。

1) 原因アレルゲンを含む食品の回避のための教育

・アレルゲン食品の見分け方

・原因アレルゲン食品が提供された時の回避の方法や断り方

2) アレルギー反応の出現時の対応の仕方

医薬品やアレルギー物質表示

1、医薬品、医薬部外品、化粧品

石鹼によっておこる食物アレルギーがあります

事例 32

お風呂の石鹼で...

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 牛乳

症状 : 全身の発赤

経過 : 祖父の家で父と一緒に入浴中、ボディークリームよりも普通の固形石鹼の方がいろいろなものが入っていないと安心して判断してしまっていて使用したところ、全身に発赤湿疹が広がりました。

解説 : 使用された石鹼は牛乳石鹼でした。

対策 : 牛乳石鹼など食物成分を原料とする製品にも気を配りましょう。自宅以外での宿泊時などは必要であれば、いつも使っている石鹼やシャンプーなどを持参することも考慮しましょう。医薬部外品には一部の成分以外はその原材料を表示する義務は企業にはありません。

事例 33

肌にやさしい石鹼と思って使用していたら...

年齢・性別 : 25歳 女性

アレルゲン : 小麦

原因 : 加水分解小麦を含む石鹼

症状 : 石鹼接触部位の紅斑、運動後のアナフィラキシー

経過 : 茶のしずく石鹼（加水分解小麦含有）を使用していたら、顔が赤くなったり口唇が腫れたりするようになりました。また、パスタやケーキを食べた後の買い物中にじんま疹が出るようになりました。先日はパスタを食べた後で、テニスをしたら全身にじんま疹が出現し、その後意識を失って倒れました。

解説 : 加水分解小麦を含む石鹼の使用により、皮膚または粘膜から石鹼中の小麦タンパクの感作を受け、同石鹼の接触によるアレルギーを生じたり、さらに小麦製品摂取だけでアレルギー症状を惹起したり、摂取後の運動で小麦依存性運動誘発アナフィラキシーを起したりする場合があります。

対策 : 加水分解小麦を含む石鹼は小麦アレルギーの患者さんだけでなく、アトピー性皮膚炎の人は皮膚から感作を受けやすいので避けた方がよいでしょう。健康な人が使用する場合でも、石鹼中の加水分解小麦による接触蕁麻疹だけでなく、小麦摂食後のアレルギーや小麦摂取後の運動誘発アナフィラキシーを発症することが報告されています。注意が必要です。

卵や牛乳アレルギーでは避けたほうがよい薬があります

事例 34

病院でもらったお薬だから安心と思ったのに...

年齢・性別 : 2歳 男児

アレルギー : 牛乳

原因 : タンナルビン (止痢剤)

症状 : じんま疹

経過 : 下痢で病院にかかった際、食物アレルギー (牛乳) があると話したにもかかわらず、タンナルビンが処方された。

解説 : 医師、保護者ともタンナルビンの原材料が牛乳であることを知らなかったため、内服させてしまった。

対策 : アレルギーを専門としない医師も、乳幼児のアレルギーとして代表的な卵白、牛乳などを含む薬剤についての知識を備えることが必要です。

事例 35

お医者さんから処方されたクスリなのに...

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルギー : 牛乳

原因 : 内服薬に含有されていた乳糖

症状 : 長引く下痢

経過 : 医師から処方されたクスリを飲み始めてから、下痢症状が長引いていました。内服薬の成分に乳糖が含有されていることが判明し、内服を中止したところ下痢症状はなくなりました。

解説 : 処方した医師が、牛乳アレルギーの非常に強い患者では、乳糖でも症状が起きうることを認識しておらず、保護者も医師の投薬なので、成分を確認していませんでした。

対策 : 経口摂取により、不具合な症状が再現性をもって出現した場合は、食物アレルギーの関与を考える必要があります。たとえ、医師の処方したクスリといえ例外ではありません。牛乳カゼインを原材料としているタンニン酸アルブミン (タンナルビン) 以外に、整腸剤、経腸栄養剤、抗菌薬の一部にカゼインや乳糖などが使用されていることがあります。薬によって含有量が異なります。

極めて微量の摂取でも症状が出現する牛乳アレルギー患児では、乳糖添加の表示がされている薬物の使用について主治医とあらかじめ相談しておきましょう。

事例 36

アレルギーの治療薬のつもりが...

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルギー : 牛乳

原因	: ソル・メドロール 40mg
症状	: 喘鳴、全身のじんま疹
経過	: 気管支喘息もあり加療されていた。喘息発作が認められるようになり、救急外来を受診、吸入とともにステロイド薬の静脈内投与を実施された。しかし、投与開始後、全身のじんま疹が認められるようになり、喘鳴もより強くなってきた。ソル・メドロール投与を中止、ボスミンの筋肉内投与、サクシゾン投与などによって症状は改善した。
解説	ソル・メドロール 40mg には乳糖が賦形されている。(ソル・メドロール 125mg、250mg、500mg には賦形されていない)
対策	一部薬剤には、乳糖が賦形されている。賦形される乳糖でも症状が出る患者が少数ではあるが、このことを周知していく。

表：卵・牛乳アレルギーと関連のある薬品（食物アレルギー診療ガイドライン 2012 から抜粋）

	含有抗原成分	商品名	一般名	薬効分類
卵	リゾチーム	ノイチーム、アクディーム、レフトーゼなど	リゾチーム塩酸塩	消炎酵素
牛乳	(禁忌の記載)*1	エンテロノン-R、ラックビーR散、エントモール散、コレボリーR散	耐性乳酸菌	腸内細菌叢改善
	カゼイン	タンナルビン、タンニン酸アルブミン	タンニン酸アルブミン	止瀉薬
		メデマイシン	ミデカマイシン	抗生物質
		ミルマグ錠	水酸化マグネシウム	制酸剤、緩下剤
		エマベリンL	ニフェジピン	降圧剤
		ジーシーMIペースト		口腔ケア用塗布薬
		エンシュア・リキッド、アミノレバンEN、ラコール、ハーモニック-M、ハーモニック-F など		経腸栄養剤
	乳糖または乳糖水和物*2	ソル・メドロール静注用40mg*3	メチルプレドニゾロン	ステロイド製剤
		ウロナーゼ静注用24万単位*4 ウロナーゼ冠動注用12万単位*4	ウロキナーゼ	線維素溶解酵素剤

インフルエンザワクチン接種前に生卵を食べさせて確認する必要はありません

事例 37

インフルエンザワクチンを受けたくて自宅で卵をちょっと試してみたら...

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 卵

症状 : じんま疹

経過 : 病院から、卵アレルギーがあるとインフルエンザの予防接種をうけられないと聞き、安易に生卵を試してしまったところ、じんま疹が出ました。

解説 : インフルエンザワクチンには卵成分が含まれています。しかし、その含有量は非常に微量です。卵アレルギーがあっても、多くの患者さんはインフルエンザワクチンを接種できます。

対策 : 卵アレルギーと診断されている場合、卵を食べられるかどうか食べてみることは自分ではしないで下さい。医師に相談して、必要ならば医師の監視下で経口負荷試験を行いましょ。卵アレルギーがある患者さんは、接種できるかどうか、医師に相談して下さい。

2、食品表示

必ず毎回表示を確認しましょう

事例 38

ついうっかり原材料表示を見逃して...

年齢・性別 : 3歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : きな粉餅

症状 : じんま疹

経過 : 同居しているお義母さんが、子どもに「きな粉餅」を買ってきてくれました。お義母さんも卵アレルギーのことは知っていたので、つい安心して、原材料表示を見ずに、子供に食べさせたところ、その直後から顔面に痒みとじんま疹が出現しました。

解説 : いつもなら必ず成分表示を確認していたのに、お義母さんからもらったので、つい、確認しそびれてしまいました。原材料表示には卵と書いてありました。

対策 : 家族や親戚からもらったものの原材料表示を再確認することは、食物アレルギーのあるお子さんをお持ちの方なら、失礼なことではありません。周りの方へも、アレルギーのあることをはっきり伝えましょ。

事例 39

個包装の確認不足で...

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 個包装になっているスナック菓子

経過 : 祖母に娘を預けていました。祖母は、鶏卵アレルギーであることは知っていましたが、個包装には記載がなかったため与えてしまいました。その後 30 分ほどして咳き込みと唇が腫れているのに気が付きました。個包装を包んである大袋のアレルギー物質食品表示には、卵白と書いてありました。

解説 : 祖母と親の表示確認の不足と情報共有の不足です。

対策 : 食べる時に原材料がはっきり確認できないものは、与えないようにしましょ。お子さんを預ける際には与えてよいものを確認しておくといいでしょ。店頭販売では原材料表示が義務付けられていないので注意が必要です。

食品衛生法において、表示が義務付けられている7品目と、推奨されている18品目を以下に示します。
 表示の対象になるのは容器包装された加工食品や添加物です。対面販売や店頭での量り売り、店舗内で製造販売される食品や30cm²以下の加工食品、また飲食店の料理は表示義務の対象ではありません
 (食物アレルギー診療ガイドライン 2012 から引用)

特定原材料等の名称	
義務	卵、乳、小麦、えび、かに、そば、落花生
推奨	あわび、いか、いくら、オレンジ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、ゼラチン、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご

事例 40

本人が大丈夫と言っても...

年齢・性別 : 6歳 男児

アレルゲン : 卵

症状 : じんま疹

経過 : 母が不在のとき、祖母に連れられてコンビニエンスストアに買い物に行き、本人が「食べたことがある」と言ったので、表示を確認せずに購入摂取してしまった。

解説 : 見た目はほとんど同じでも、アレルギー含有に違いがある食品も多い。また同じ商品でも販売地域による違いや、リニューアルにより含有成分が変わることもあります。

対策 : 毎回食品表示の確認が必要です。本人にも、食品表示を確認するように指導すると共に、家族にも表示の確認を徹底するように理解してもらうようにしましょう。

事例 41

友人から頂いたお菓子で...

年齢・性別 : 1歳 女児

アレルゲン : 小麦

症状 : じんま疹

経過 : 子供のアレルギーをよく知っている友人が「小麦を使っていないよ。米粉だよ。」と言ってお菓子を頂きました。うっかり食品表示を確かめず、食べさせてじんま疹が出てしまいました。

解説 : 米粉メインのお菓子でも、小麦が少量含まれていました。

対策 : きちんと原材料表示を確かめましょう。表示は含有量が多い食材から記載されています。少量になると最後の方に記載されているので余計に注意が必要です。

事例 42

海外のお土産で...

年齢・性別 : 7歳 女児

アレルゲン : くるみ

症状 : じんま疹

経過 : アメリカのお土産の原材料が英語表記であったので、よく確認せずに食べたところ、アレルギー一症状が誘発されました。

解説 : くるみ科のナッツ（ペカン）が含まれていました。

対策 : 海外からの輸入品やお土産は原材料表示が分かりづらく、トラブルが起きやすくなります。まずはきちんと表示を確かめることが重要です。怪しいときは食させず避けて下さい。

できれば複数の人が表示を確認しましょう

事例 43

保育園でアレルゲンなしのおやつと言われて食べたところ...

年齢・性別 : 4歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 園でだされたおやつ

症状 : 嘔吐

経過 : 毎日、園で出されるおやつは、アレルゲンの有無を確認してもらえます。その日は、調理員さんが確認し、アレルゲンは入っていないとのことだったので、食べたところ、嘔吐してしまいました。

解説 : 調理員さんがアレルゲンの表示を見落とし、さらに、担任の先生がお休みで、代理の先生にアレルギーの情報がしっかり伝わっていなかったために、牛乳を含む食材が混入したことが後からわかりました。

対策 : 原材料表示の確認は、できることなら2人以上で行うこと。また、担任の先生がいない場合でも、今回のような誤食が起こらないように、日頃から、他の先生にも食物アレルギーのことをしっかり理解してもらうことが必要です（情報の共有）。

事例 44

いつも食べている桃を缶詰で食べたら...

年齢・性別 : 4歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因	: 桃の缶詰
症状	: じんま疹、皮膚の発赤、痒み。
経過	: 保育園のおやつが、桃の缶詰でした。今まで果物の桃を食べても症状はなかったので、1切れ食べたところ、食べて30分後から、じんま疹や皮膚の発赤、痒みが出現し、そのまま入院となりました。
解説	: 果物だけなら大丈夫だったものが、缶詰で食べたら、アレルギー症状が出ました。これは、シロップに含まれていた乳成分が症状を引き起こしたと思われます。
対策	: 乳製品は表示しなければならない義務があります。必ず購入時に表示を確認しましょう。今回のように保育園のおやつの場合は、親が表示を確認することができません。シロップ漬けには乳が含まれる可能性を知っておき、保育園でも表示を必ず確認してもらうようお願いしましょう。

食べ慣れた加工品でもリニューアルの可能性を知っておきましょう

事例 45

同じお菓子が大丈夫だったのに...

年齢・性別	: 6歳 男児
アレルゲン	: 卵
原因	: リニューアルで、アレルゲンを含有するようになったお菓子
症状	: 症状出現なし
経過	: 以前にアレルゲン含まれないことを確認して日常的に食べていたお菓子を、いつものように食べた直後に成分表示をみたところ、アレルゲンを含有していることに気づいた。医師から処方されている誤食時の薬を内服して症状は出なかった。
解説	: 市販のお菓子などは、同じ商品名でもリニューアルで成分が変わることがあります。製造する地域によっても、違うことがあります。
対策	: 加工食品を食べる時は、食べる前に成分表示を再度確認する習慣をつけましょう。

製造ラインまで確認しましょう

事例 46

表示に娘のアレルゲンとなる物はなかったのに...

年齢・性別	: 6歳 女児
アレルゲン	: 牛乳
原因	: 牛乳の表示のないチョコレート（製造ラインでの混入）
症状	: じんま疹
経過	: チョコレートのアレルゲン表示に「牛乳」がなかったたので食べさせたところ、1時間後に顔にじんま疹が出ました。内服によって症状は改善しました。 表示の枠の中には娘のアレルゲンとなる食物はなかったが、欄外に「同じ製造ラインで牛乳を含

む製品を生産しています」という表示がありました。

解説 : 食物アレルギーは微量なコンタミネーション（混入）でも起こしえます。
対策 : 同じ製造ラインを使用している場合、「本品製造工場では〇〇を含む製品を生産しています」などと欄外表示してあるのでよく確認してください。欄外表示は義務ではないため、必ずしもあてにはできませんが、含有量が微量とは限りません。欄外表示でも原因食品であれば避けた方が安全です。

レストラン や店頭販売に表示義務はありません

事例 47

旅行先に名物のアイスクリーム屋さんがあつて...

年齢・性別 : 7歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : アイスクリーム

症状 : じんま疹

経過 : 表示がはっきりしないものは食べないようにしていたが、雰囲気でご慢できなくなって名物のアイスクリームを少し食べさせてしまいました。卵の混入は少なかったのか、幸い軽い症状のみで大事には至りませんでした。もし強い症状が出ていたらせっかくの楽しい旅行が台無しになるところだったと反省しています。

解説 : 店頭販売の場合、表示義務はありません

対策 : 気の緩みが大きな事故につながることはあります。旅先では医療機関もすぐに見つかりません。家族全員協力して表示のされていないものは食べさせないようにしましょう。

事例 48

パン屋さんのパンは安全と思ったのに...

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 米粉のパン

症状 : アナフィラキシーショック

経過 : パン屋さんで米粉のパンを購入しました。卵と牛乳も除去中なので、店員さんに確認すると、「卵も牛乳も入っていません」とのことでした。翌朝、子どもの朝ご飯としてパンを食べさせたら、全身じんま疹に、呼吸困難が出現し、アナフィラキシーショックで入院しました。

解説 : 実はこのパンには、脱脂粉乳が使われていました。店員さんには脱脂粉乳が乳製品であるとの認識がありませんでした。今回のことは、パン屋の店員さんの知識不足が原因でした。

対策 : 基本的に店頭販売はアレルギー物質の表示義務がありません。店員は、原材料に関する知識が不正確なことが多いので、店員の言葉を鵜呑みにせず、責任者に聞いた方がよいでしょう。店側には、表示義務はありませんが、アレルギーの相談を受けた場合、原材料を正確に伝え、不

明な時は「わかりません」と応えるべきです。

また、アレルギー対応と謳う場合は、コンタミネーションも含めた、厳密な管理が必要です。

総菜やばら売り、試食品に表示義務はありません

事例 49

スーパーマーケット試食コーナーにて

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 卵、牛乳

原因 : ソーセージ

症状 : 咳、腹痛、顔のむくみ

経過 : 親が目を離れたすきに、スーパーの試食品を食べてしまいました。本人は黙っていましたが15分くらいして、咳と腹痛が出現し、顔が腫れてきました。おかしいと思い、本人に問い詰めたところソーセージを食べたと白状したので、すぐ手持ちの内服薬を飲ませ症状は落ち着きました。

解説 : 店頭販売の場合、表示義務はありません

対策 : スーパーの試食品は大きい子であれば食べないように教えましょう。小さい子は試食コーナーのあるスーパーでは目を離さないようにしましょう。

事例 50

表面に卵を塗った「卵不使用」調理パンって...

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 卵

症状 : じんま疹

経過 : 卵不使用と記載されていた調理パンをスーパーで購入し食べたところ、全身じんま疹が出ました。

解説 : パン自体には卵は使用していなかったため、卵不使用と記載されていましたが、調理の際、表面に卵を塗ってありました。アレルゲンの食品表示義務は包装加工食品に適用されるが、お総菜などの店頭販売食品には表示義務はない。

対策 : 店頭で販売される食品には表示義務がないので注意が必要です。

事例 51

手作り食品には表示義務がないので...

年齢・性別 : 3歳 女児

アレルゲン : くるみ

症状 : じんま疹

経過 : おやつに、お土産にもらった五平餅を食べたところ、咳が止まらなくなって、病院に受診した。

- 解説 : くるみに対してアレルギーがあることはわかっていたが、五平餅にくるみを使うこともあることは知らなかった。
- 対策 : 手作りの食品には原材料の表示がない場合が多いため、注意が必要であり、問い合わせ先が明記されている時には、電話で内容を確認する。

紛らわしい表示でもお子さんのアレルギーと関連のあるものは覚えるようにしましょう

事例 52

少しなら大丈夫と思ったが...

年齢・性別 : 2歳 男児

アレルギー : 小麦

原因 : 小麦グルテンが5%入っている米粉で作られたパン

症状 : 顔と腕にじんま疹

経過 : 義理の父が、米粉だけを使ったパンを買ってきてくれた。店の人は義父に、小麦成分は入っていないと言ったそうだが、心配だったので問い合わせをしたところ、軟らかさを出すために小麦グルテンを5%入れていて、重篤な小麦アレルギーの人以外は大丈夫だろうと言われた。5cm大を食べさせたら、3時間後に顔と腕にじんま疹がでた。病院に行き、待っている間に症状は落ち着いた。

解説 : 米粉パンに含まれていた少量の小麦グルテンで症状がでました。

対策 : 小麦アレルギー患者さんはグルテンを含む食品も食べさせない。

事例 53

グルテン入りの「100%米粉パン」って...

年齢・性別 : 3歳1ヵ月 男児

アレルギー : 小麦

原因 : 米粉パン

症状 : アナフィラキシー

経過 : ショッピングモールの店頭販売で、「100%米粉パン」と銘打ったパンを購入しました。成分表示に小麦は入っていないことは確認して食べましたが、その帰りの車の中でアナフィラキシーを起こしました。

解説 : 「100%米粉」という表示にもかかわらず、グルテンが含まれていたことが分かりました。

製造者はグルテンが小麦成分と認識していませんでした。

「100%米粉パン」という表示だと、小麦アレルギー患者が選んで食べることを予想すべきです。

対策 : 製造側はアレルギー表示について十分に理解する必要があります。また、食物アレルギーに関する知識も必要です。

小麦アレルギー患者さんやその家族は「米粉パン」にはグルテンが使われることがあることを知りましょう。

わかりにくい表示例の解説

カカオバター	カカオ豆をローストした後、すりつぶして作られるカカオマスを押搾してとった脂肪分。バターという単語が含まれているが「乳」とは関係ない。
カゼイン	牛乳の主なアレルゲンタンパク質の1つ。熱処理では凝固しにくい、酸で固まる性質がある。
グルテン	グルテンは小麦、ライ麦などの穀物に含まれるタンパク質であるグリアジンとグルテニンが結合したもので、小麦などの主要なタンパク質である。小麦粉特有の「ねばり」を作る成分。タンパク質の含有量の多い順に、強力粉（パン、パスタ用）・中力粉（うどん、お好み焼き、たこ焼き用）・薄力粉（ホットケーキ、クッキー用）に区別される。
ゼラチン	タンパク質の1種で、水溶性のコラーゲン。水に溶いて加熱したあと冷やすと固まる性質を有する。牛・豚・にわとりの骨や皮が原料となる。魚由来のものもあるが、哺乳類由来のゼラチンとは一般的には交差反応しない。
増粘多糖類	果実、豆、でんぷん、海藻から抽出した多糖類で、増粘剤や安定剤として使われる。これによって食品にとろみをつけ、食感やのどごしを良くする目的で広く使用される。お菓子・アイスクリーム・ドレッシング・練り製品などに使用される。
タンパク加水分解物	原料のタンパク質をペプチドあるいはアミノ酸まで分解したもので、うま味調味料として使用される。動物性の原料として牛、にわとり、豚、魚など、植物性の原料として大豆、小麦、コーンなどが使われる。
でんぷん	多糖類の1種で、水に溶いて加熱すると糊状になる。じゃが芋・米・小麦・くず・コーン・さつまいも・サゴヤシなどが原料になる。
乳化剤	混ぜにくい2つ以上の液体（例えば油と水）を乳液状またはクリーム状（白濁）にするための添加物である。卵黄あるいは大豆のレシチンや牛脂などから作られる。化学的に合成されることもある。牛乳から作られるものではないので、牛乳アレルギー患者でも摂取できる。
乳糖（ラクトース）	牛乳中に存在するガラクトースとグルコースが結合した二糖である。稀ではあるが、牛乳アレルギー患者でアレルギー症状を起こすことがある乳糖は牛乳を原材料として作られているため、乳糖1g中に4～8μgの牛乳タンパク質が混じっている。乳糖はアレルギー物質表示制度では表示義務になっている「乳」に含まれる。「乳」の文字が含まれているため「乳」の代替表記として認められている。
乳酸菌	食べ物を発酵して乳酸を作り出す細菌の名前。牛乳とは直接関係なく、牛乳アレルギー患者も摂取可能。しかし、乳酸菌で発酵した乳（発酵乳）は原材料が乳であるため、牛乳アレルギー患者は摂取できない。
乳酸カルシウム	化学物質であり「乳」とは関係ない。
ホエイ（ホエイ）（乳清）	牛乳に含まれるタンパク質で、牛乳から乳脂肪やカゼインを除いた水溶液である。酸で固めたときに残る液体部分（乳清）である。
ラクトグロブリン	牛乳の主なアレルゲンタンパク質の1つ。カゼインに比べ酸処理に耐性を示すが、加熱処理には弱い。
卵殻カルシウム	卵殻カルシウムには高温で処理された焼成カルシウムと未焼成カルシウムとがある。焼成カルシウムには卵のタンパク質が残留していないため、食品衛生法では卵の表示は不要であるが、未焼成カルシウムは確認不十分のため、卵の表示をしている企業が多い。（卵殻未焼成カルシウムも卵のアレルゲンの混入がほとんど認められず、卵としてのアレルゲン性は低いとされている）
レシチン	乳化剤として使用。大豆あるいは卵黄から作られる。
油脂	動物性油脂には魚油・バター・ラード、植物性油脂には大豆油・パーム油・なたね油・コーン油・キャノーラ油・やし油などがある。

まとめ 医薬品や加工食品のアレルギー物質表示

医薬品や医薬部外品、化粧品

- ・ 医薬部外品には食物アレルゲンが入っていても表示の義務はありません。
- ・ 食物アレルギーと関連する薬剤を知っておきましょう
- ・ インフルエンザワクチンには卵成分が含まれています。しかし、その量は微量のため卵アレルギー患児の多くは安全に接種ができます。ワクチンに詳しい医師に相談して下さい。卵アレルギーの患者さんは、卵を安全に食べることができるか、自分で確認することはしないで下さい。

食品表示

- ・ 加工食品を買う時には、必ず表示を確認しましょう。また、可能であれば複数の眼で確認をしましょう。例え、食べ慣れた加工品でもリニューアルすることがあるので、毎回確認しましょう。
- ・ 製造ラインの記載のある枠外表示まできちんと読みましょう。
- ・ レストラン、店頭販売、総菜などの量り売り、試食品などにも表示の義務はありません。
- ・ 分かりにくい表示についてもお子さんの原因アレルゲンと関連するものは覚えておきましょう

自宅（祖父母宅）

1、食品購入時

よく行き来する祖父母宅での問題点

事例 54

同じメーカーのジュースで...

年齢・性別 : 4歳 女兒

アレルギー : 牛乳

経過 : 祖父母宅にて、いとこの小学生のお兄ちゃんと一緒に遊んでいる最中に、冷蔵庫からジュースを出して一緒に飲んで症状が出てしまいました。いつもと同じメーカーのジュースでしたが、りんごジュースではなくヨーグルト飲料でした。

解説 : 以前飲んだことのあるパッケージのジュースだったため、大丈夫と思ったとのこと。

対策 : 似たようなパッケージやシリーズで、原材料品目が異なる加工品が販売されています。同じものでも改良で材料変更されていることもありえます。購入時に気をつけることは当然ですが、小さいお子さんでしたら必ず「大人に確認してから飲食すること」を教える必要があります。また、よく行く祖母宅であれば自宅同様に原因アレルギーは置かないようにしてもらいましょう。

2、情報共有不足

見た目がそっくりな代替食に潜む問題点

事例55

あまり上手に代替食を作りすぎたばっかりに...

年齢・性別 : 6歳 女兒

アレルギー : 牛乳

原因 : 牛乳入りアイスクャンディー

症状 : 全身のかゆみとじんま疹

経過 : お友達とおやつと一緒に食べる時に備えて、見た目がそっくり同じものを牛乳除去して作って準備していました。しかし、母親が席をはずした時に、お友達のお母さんが区別つかなくて与えてしまいました。食べて15分ぐらいした時に全身のかゆみとじんま疹が出て間違っで与えたことに気づきました。すぐに手持ちの薬を飲ませて症状はおさまりました。

解説 : お友達には牛乳入りの市販のアイスクャンディー、患児にはおかあさんの手作りの牛乳除去のアイスクャンディーを準備しておいたのですが、見た目がほとんど変わらないために、お友達の母親が患児に牛乳入りのアイスクャンディーを与えてしまいました。

対策 : 除去食を行っている場合も、できるだけ同じようにみえるものを与える工夫は大切と考えます。しかし、そのことをみんなで理解していないとこのような誤食につながります。食器を色違いにしたりして区別する工夫が必要です。

事例 56

まさかお代わりの時に間違うなんて...

年齢・性別 : 14歳 男子

アレルゲン : 牛乳・小麦

原因 : 家族用のシチュー

症状 : アナフィラキシー

経過 : 夕食のシチューで、自分でお代わりする際に、アレルゲンの入った家族用のシチューを患者自身が誤って食べたところ、じんま疹、咳、喘鳴。腹痛、嘔吐が出現し病院を救急で受診、点滴等の処置で症状は改善しました。エピペン[®]を所持していましたが、自宅で注射するタイミングがわからず、使用できませんでした。

解説 : 以前は、家族全員がアレルギー対応のシチューを食べていましたが、今回は患者の年齢も高く、見た目も味もまったく違うシチューをアレルギー用と家族用に別々のお鍋で作りましたが、患者本人が確認しませんでした。

対策 : 中学生でもあり、あれこれ言われるのが嫌だろうと、本人まかせが事故を招きました。アナフィラキシーまで起こしており、家族が患者と異なるものを一緒に食べる時は自宅といえども、はっきり区別できるような工夫が必要です。エピペン[®]を使用するタイミングは医師とよく相談しておく必要があります。

留守中に面倒を見てくれる人には、十分な情報を話しておかないと

事例 57

母親の留守中におじいちゃんが...

年齢・性別 : 1歳 女児

アレルゲン : 卵、牛乳

原因 : 卵と牛乳入りのビスケット

症状 : 嘔吐、じんま疹

経過 : 母親の留守中に、同居していない祖父が卵と牛乳入りのビスケットであることを知らずに与えてしまい、全身にじんま疹が出ました。祖父から連絡を受けたので、すぐ救急車で病院に連れて行ってもらいました。

解説 : 同居していない祖父は孫が牛乳アレルギーとは知っていましたが、除去の内容について詳しく聞いていなかったため、卵と牛乳入りのビスケットを与えてしまいました。

対策 : 除去食を行っている場合、患児をとりまく家族全員がその内容を知ることが大切です。お母さんの留守中でも食べていけないものがわかるように、具体的に記載した表を目につくところに貼っておくのも良いでしょう。

事例 58

アレルギーと知っていたが、ほしがる孫に少しくらいと...

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 小麦

原因 : 菓子パン

症状 : 顔面の発赤、じんま疹

経過 : 祖父に子供を預かってもらっていた時に、置いてあった菓子パンを見つけ欲しがりました。食物アレルギーがあるとの認識はあったのですが、かわいそうに思い、少しくらいなら大丈夫だろうと食べさせてしまったところ、顔にじんま疹が出てしまいました。

解説 : 原因食品でも少しくらいならよいだろうと、安易に与えてしまったことが原因です。

対策 : 家族内での理解を深めてもらい、聞き分けの難しい年齢の子の前にアレルゲン食品を置かないことも大切です。

3、食品の整理整頓

アレルゲン食品や家族・兄弟などの食べ残しなど、そのままにしておくは大変です

事例 59

まさか触るとは...

年齢・性別 : 4歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 生クリーム

症状 : 目の周りの発赤と腫れ、体の痒み

経過 : 子供は別の部屋で遊んでいたのですが、保育園でもらった誕生日ケーキの入った箱をテーブルの上に置いたまま、台所で食事の支度をしていました。しばらくして、「おかあさん」と呼ぶ声があったので行くと、ケーキの箱の中に手を入れて生クリームをなめていて、目の周りが赤く腫れて、全身を痒がっていました。

解説 : 箱に入っていたが、子供の手の届くテーブルの上にあったケーキの生クリームをなめて症状が出ました。

対策 : 手の届くところにはアレルゲンは置かない。また本人に食べてはダメなもの自覚を促すことも必要です。

事例 60

お兄ちゃんのラムネを自分のと同じお菓子だと思って...

年齢・性別 : 2歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : ミルクカルシウム入りのラムネ

症状 : 顔面の発赤と咳

- 経過 : 一部のラムネは食べていたので、兄が食べているミルクカルシウム入りのラムネを見つけて食べてしまい、顔面の発赤と咳が出現しました。かかりつけの小児科に受診し、吸入と内服を行い症状は改善しました。
- 解説 : 兄の食べているラムネを、自分の食べているものと区別できずに食べて、症状が出てしまいました。
- 対策 : アレルゲンとなるものは家に置かない、または手の届かない場所に置くなど、家族の協力も大切です。咳は、重篤なアレルギー症状のサインなので、病院を受診して適切な対応をしてもらう必要があります。

事例 61

お兄ちゃんがもらったチョコレートを知らない間に...

- 年齢・性別 : 5歳 男児
- アレルゲン : ピーナッツ
- 原因 : ピーナッツクリーム入りのチョコレート
- 症状 : 顔と体にじんま疹
- 経過 : 兄の学校のクリスマス会で配られたチョコレートを知らないうちに食べてしまい、顔と体にじんま疹が出ました。ラベルを調べたらピーナッツクリームが入ったチョコレートでした。
- 解説 : 見た目だけではピーナッツが含まれるかわからないチョコレートを食べて症状が出てしまいました。
- 対策 : アレルギーの子どもがいる場合、兄弟がもらって帰ってきた食品は、すばやくアレルギー児の見えない場所に片づける必要があります。

事例 62

食べ残しには注意を！

- 年齢・性別 : 2歳 男児
- アレルゲン : 牛乳
- 症状 : じんま疹、咳
- 経過 : 兄弟が飲んだ飲みかけのコップの牛乳を、お茶が入っていると思って飲んでしまい、じんま疹と咳が出ました。
- 解説 : 飲みかけのコップからの牛乳の誤食は報告が多く、兄弟に食物アレルギーがない家庭での報告が多いのが現状です。
- 対策 : 牛乳アレルギーは、数滴というごく少量でも症状が誘発されることがあり、原因アレルゲンは子どもの手の届かない場所に置く必要があります。

事例 63

食卓に残されたスプーンが...

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : スプーンについたカフェオーレ

症状 : 嘔吐、じんま疹

経過 : 朝食で父親がカフェオーレを飲むのに使用したスプーンを、食卓に置きっぱなしで会社に出かけてしまったことに気づきませんでした。子どもが食卓に残されたスプーンをなめてしまい、その後、急にぐったりし、多量に嘔吐し、全身にじんま疹が出たので病院に連れて行きました。

解説 : スプーンに残ったわずかの牛乳がアレルギー症状をひき起こしました。ごく少量のアレルゲンでも患者によっては重篤な症状の原因となります。

対策 : 食物除去をしている場合、食物そのものはもちろんですが、調理に使用した器具や、食器まで注意が必要です。調理したらすぐに洗う、食器はただちに片付けるといったことで、このような誤食は回避できます。

事例 64

身近にアレルゲンは置かないこと！

年齢・性別 : 1歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 牛乳を浴びた

症状 : アナフィラキシー

経過 : 兄の飲み残しの牛乳を取り上げたところ、患児がとびかかったため牛乳を頭から浴びてしまいました。過去に微量でアナフィラキシーをおこした既往があるため、誤食時の緊急時薬を飲ませ、直ちに病院を受診しました。病院を受診した時点で、アナフィラキシー症状が出現しましたが、迅速に処置がおこなわれ大事にいたることはありませんでした。

解説 : 低年齢の場合、予期せぬ行動をおこすことがあります。身近に、アレルギーの原因となるものを置かないように努めるしかありません。兄弟が飲んだり、食べたりする場合は、場所をきめて残したものはすみやかに片づけましょう。この事例では、アナフィラキシーの既往があることから、自宅で緊急時薬を内服して病院を受診したことが、大きな事故にならずに済んだ要因となっています。

事例 65

お兄ちゃんのたべこぼしに卵が...

年齢・性別 : 1歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : 卵焼きの食べこぼし

症状 : アナフィラキシー
経過 : 10ヵ月ごろまで重症のアトピー性皮膚炎でしたが、スキンケア・軟膏塗布と卵の除去で皮膚炎はほぼ治っていました。卵料理はまったく食べないようにしていたのですが、4歳の兄の卵焼きの食べこぼしを患児が口に入れてしまったようで、その直後に口唇から顔全体の発赤、腫脹および喘鳴、呼吸困難が出てきました。救急車を呼んで病院に連れて行きました。

解説 : 過敏症状の強いお子さんでは、ごく少量でも症状が誘発されることがあります。
対策 : 食物アレルギーの強いお子さんのいる家庭では、家庭内にアレルゲンとなる食品は置かないようにするのが一番ですが、置かざるを得ない時には、患児がアレルゲンに触れることがないように、十分に注意することが必要です。

まさか生ゴミのふたを開けるなんて...

事例 66

ゴミ箱の中のタマゴの殻が...

年齢・性別 : 4歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : ゴミ箱に捨てられていた卵の殻

症状 : 顔面のかゆみと腫脹

経過 : 母親が台所に入ると、子どもが顔を掻きむしりながら、泣いていました。見ると顔が真っ赤に腫れており、手にはゴミ箱から拾い出したと思われるタマゴの殻がにぎられていました。水で顔を洗って症状は軽快しましたが、念のため主治医に相談して飲み薬を飲ませました。

解説 : 生ゴミの卵の殻に残っていた微量タンパク質による症状です。

対策 : アレルゲンの除去は、ゴミの後片付けまで慎重に対処することが必要です。

4、食事中の配慮

事例 67

お兄ちゃんの食事に手をのばして...

年齢・性別 : 3歳 男児

アレルゲン : イクラ

原因 : 手巻き寿司（イクラ巻）

症状 : 全身のじんま疹

経過 : 夕食の手巻きすしを兄弟2人だけで食べていたところ、患児がつい手を伸ばして兄のイクラ巻きを食べてしまいました。食べた直後から全身のじんま疹が出てきたため、すぐに手持ちの薬を飲ませました。

解説 : 小さなお兄さん、お姉さんにまで除去食を理解させることは難しいでしょう。しかし事例のように少量を口にただけでもアナフィラキシーとよばれる重篤な症状が起きることがあります。

除去しているものを食卓に出す場合は細心の注意が必要です。

対策 : 原因食品の除去食が、家族みんなの心理的負担にならないよう、小さな兄弟にもわかりやすいように食物アレルギーを話してあげてください。機会があれば除去食をしている兄弟の診察に付き添って、主治医の先生から話してもらうのも良いでしょう。

5、極微量でも症状が出る子もいます

事例 68

ヨーグルトを食べたお姉ちゃんのクシャミが顔に飛んで...

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : ヨーグルト

症状 : 顔面のかゆみと腫れ

経過 : 生後1ヵ月より牛乳除去を継続していました。おやつ時間に4歳のお姉さんがヨーグルトを食べていて、患児の顔の前で大きなクシャミをしました。そのクシャミを浴びたとたん顔中を掻きむしりだし、まぶたはパンパンに腫れあがりました。すぐに流水で顔を洗い、水で絞ったタオルで冷やし、アレルギー症状が起きた時に服用するように指示されていた薬を飲ませたら症状は軽快しました。

解説 : お姉ちゃんのくしゃみの中に含まれていたヨーグルトで症状が出ました。思わぬことで、アレルゲンを浴びることがあります。クシャミのように避けられないこともあります。

対策 : アレルゲンを浴びてしまった時はまず、流水でしっかり洗い流してください。万一の場合に、主治医の先生からお薬を戴いておくことも大切です。アナフィラキシーとよばれる重篤なアレルギー症状の既往がある場合には、即効性のあるエピペン®という自己注射用の薬を処方してもらうのもよいでしょう。

事例 69

話をしていただけなのに...

年齢・性別 : 7歳 男児

アレルゲン : 魚

原因 : 口から飛び出した魚のかけらあるいは唾液

症状 : 発赤、かゆみ、じんま疹、目の充血

経過 : 食卓の向かい側に座った兄が、魚を口に入れたまま話をしていたところ、急に目や顔が痒くなってきました。

解説 : 目に見えない程度のアレルゲンでも、食物アレルギーが重症であれば、アレルギー反応が起こることがあります。

対策 : アレルギーの強い子供さんがいる家庭ではその子にあわせた献立を考え、家族みんなで同じものを食べるようにするのがよいでしょう。どうしてもできない場合は、時間や場所をずらして食

事をするようにし、魚料理を食べたあとは歯みがき、うがい、手洗いをしてから、アレルギーのある子供と接するようにしましょう。

事例 70

本人は食べていないのに...

年齢・性別 : 7歳 女児

アレルゲン : 小麦、そば

原因 : 兄が食べたクッキー

症状 : アナフィラキシー（顔の紅斑と喘息発作）

経過 : 兄がクッキーを食べ、その後、口も手も十分に洗ったにもかかわらず、一緒に遊んでいたら顔が赤くなり、喘息症状が出てきました。緊急常備薬を内服し、病院を受診し、点滴で症状は治まりました。

解説 : クッキーを食べたあと、兄は手と口を洗ったにもかかわらず、症状が出てしまいました。衣類などにクッキーのかけらがついていていた可能性もあります。

対策 : お子さんが強いアレルギーを持っている場合、家族にも協力してもらい、家庭内にアレルゲンとなるものを置かないようにする必要があります。特に外出先や、お友達の家などでは注意が必要です。

事例 71

触っただけでもアレルギーが出るの？

年齢・性別 : 7ヵ月 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 牛乳を飲んだあとの唾液か、手に残った牛乳

症状 : 発赤、じんま疹

経過 : 父親が牛乳を飲み、そのままうがい手洗いをせずに子供を抱いたところ、父親の手が触れた首の後ろにじんま疹が出始めた。

解説 : 食物アレルギーが重症な場合、触っただけでもアレルギー症状が出てくることを知っておく。

対策 : 原因食品を食べたあとは、うがい手洗いをしてから、子供に接するようにする。

事例 72

触っただけでも、症状が出ます！

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 手に付着していた卵

症状 : 接触部位の皮膚の発赤・かゆみ

- 経過 : 鶏卵を材料に、カップケーキを作っていた姉が、保育園から帰ってきた弟を抱き上げたところ、接触部位がみるみる、赤くなりかゆみが出現。直ちに、接触した部位を流水で洗い流して、症状が軽快した。
- 解説 : 姉が、鶏卵を触った手をしっかり洗わなかったために、接触によるアレルギー症状を起こした。経口摂取以外にも食物アレルギーが起きることもあります。
- 対策 : 家族に食物アレルギーがある場合は、家族全員が認識して、手も含め原因食物が付着した場合は十分に洗うなどして、注意することが大切です。

まとめ 自宅（祖父母宅）

1、食品購入時

- ・アレルギー物質食品表示をチェックする
- ・安全に摂取できる商品の一覧表（メモ）を作成しておく
- ・よく行き来する祖父母宅では、自宅同様の対策をしてもらう

2、情報共有

- ・よく来る友達には除去食について理解してもらいましょう
- ・他の人との見分けがつくように専用の食器を準備しておきましょう
- ・代替え食の入った食器には印をつけ情報を共有しましょう（専用のものがあるとよい）
- ・患児が除去食以外の料理を間違えて食べないようにみんなで注意しましょう（可能であれば、家族全員が食べられるような除去食を作るようにしましょう）
- ・日ごろから祖父母を含めて家族全員で食物アレルギーについて話し合ひましょう
- ・アレルギー食品を書いた張り紙をしておきましょう

3、食後の整理整頓

- ・食物はすぐに手の届かない所に片付ける
- ・子供の目の届くところにアレルゲン食品を置かない
- ・冷蔵庫や食物を捨てるゴミ箱は患児の手が届かない工夫をする

4、食事中

- ・保護者は目を離さない

5、微量でも症状が誘発される場合の注意

- ・家中に原因アレルゲン食品を置かないようにする
- ・原因アレルゲン食品が家にある場合；

誤食をしない一般的な注意以外に、食後は家族全員よく手を洗いやうがいをする
アレルゲンがついた兄弟の衣服は着替えさせる

6、大きくなったら食物アレルギー回避のための教育を行う（自宅外での誤食対策のため）

- ・回避のための教育：食品の見分け方
- ・アレルゲン食品が提供された時の回避の方法や断り方
- ・アレルギー反応の出現時の対応

友人宅（友人との食事会）

事例 73

友達の親子パーティーに参加したら、子供がおやつに手を出して...

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 卵、牛乳、小麦

症状 : じんま疹

経過 : パーティーに参加した子供に年齢幅があったため、小学生の子ども達用のビスケットに、食物アレルギーのある1歳の子が手を出してしまいました。30分ほどしてじんま疹に気づいたため、手持ちの内服薬を飲ませ、しばらくしたら落ち着きました。

解説 : パーティーに参加する前に、参加者の年齢構成や、食事や軽食の内容などを確認していなかったため、今回のようなことが生じました。

対策 : 食物アレルギーを持つお子さんとパーティーや集まりに参加する時には、あらかじめ、食べられるおやつや食事を持参しておくといいでしょう。また、パーティーの主催者や参加する人に、食物アレルギーのことをきちんと伝えておくことも重要です。

事例 74

少しぐらいなら大丈夫と思い...

年齢・性別 : 13歳 女児

アレルゲン : 牛乳

症状 : アナフィラキシー

経過 : お友達のうちで、スティックチーズがおやつに出されました。食べてはいけないことはわかっていたのですが、少しならいいと思い、食べてしまいました。食べた直後から唇が腫れ、息苦しくなり、喘息発作が出ました。自宅で安静にしていたら、2時間ぐらいで症状は治まりました。

解説 : 年長児の場合、遠慮もあり、お友達の家で出されたものを食べられないとは言えず、つい食べてしまうということがあります。

対策 : 子供が自分では言いにくいこともあるので、あらかじめ親が先方に連絡をしておく方がいいでしょう。食べてしまった時、すぐに対応できるように、緊急時薬を携帯することも忘れないように。

まとめ 友人宅（友人との食事会）

親子パーティーなど大勢の子どもが集まる場合へ行く前の準備

- ・食物アレルギーのことを主催者伝えておく
- ・事前にメニューの原材料を確認しておく
- ・アレルギー対応でなければ子供は連れて行かない
- ・どうしても連れて行くなれば子供から目を離さない
- ・普段食べても安全な食品を持っていく
- ・主治医からの緊急時薬は必ず携帯する
- ・近くの病院を把握しておき、症状誘発時の対応をシュミレーションしておく

誤食によるアレルギー症状が出現した時の手順を決めておく。

- ・エピペン®；平生から練習用注射器で練習
- ・内服用ステロイド薬、内服用抗ヒスタミン薬の常備、携帯
(いつでも、どこでも使えるように；数か所に常備)
- ・救急病院を調べておく

園・学校・施設

1、食物アレルギーに関する知識の不足による事例

食物アレルギーの事を知らないスタッフが起こした事例

事例 75

園でおやつのおかわりを間違えて配膳

年齢・性別 : 3歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : 園でだされた卵入りクッキー

症状 : じんま疹

経過 : 4月の慣れないバタバタしている時期に、卵アレルギーの園児がおやつのおかわりをしたところ、先生が間違えて食べていけない卵入りのおやつをあげてしまい、食べたところ、じんま疹が出ました

解説 : 先生は新任初日で、仕事に慣れていませんでした。そのため、食物アレルギーに十分注意を払わず、あげてしまったそうです。また、おかわりということで、注意がおろそかになっていた可能性もあります。

対策 : 先生が保育に慣れていない場合、特に食事の時間は、先生を増やし、食物アレルギーの園児に注意を払う必要があります。また、新任の先生にも、事前に食物アレルギーの知識をつけてもらうことが大事です。

事例 76

カルピスは牛乳からつくるの!?

年齢・性別 : 5歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 乳酸菌飲料 (カルピス)

症状 : じんま疹

経過 : 園の先生がおやつ時に乳酸菌飲料 (カルピス) を飲ませてしまいじんま疹が出ました。

解説 : 先生はカルピスが牛乳から出来ていることを知りませんでした。

対策 : 食物アレルギーの患児がいる園では、食べさせる食品の原材料は事前に調べておくべきです。

2、情報共有不足による事例

スタッフ間の情報共有が不十分すると

事例 77

間違っって渡されたアメとパンケーキ、先生どうして?

年齢・性別 : 5歳 女児

アレルゲン : 卵・牛乳・小麦

原因 : フルーツアメ (牛乳入り) ・卵と牛乳を除去したパンケーキ (小麦)
症状 : 全身のじんま疹と喘鳴
経過 : 食物アレルギーについて担任の先生には話してあったのですが、担任の不在中に、牛乳入りのフルーツアメや、小麦で作られた卵と牛乳を除去したパンケーキが配られたりしたことがありました。アメの場合は軽いじんま疹で、すぐ主治医と電話で相談をして、抗ヒスタミン薬内服のみで落ち着きましたが、パンケーキの場合はじんま疹に加えて喘鳴まで出現し、救急車で病院へ搬送され入院となりました。

解説 : 担任の先生以外の保育園スタッフが、この児の原因食物をきちんと把握していなかったため生じました。

対策 : スタッフ全員が、患者の情報を共有することが大切です。できれば数カ月に一度スタッフ (園長・担任・給食責任者) と養育者で情報交換をする機会があると良いです。主治医から食物除去の指示書を記載してもらい、症状が出た時の対処方法を文書で園に伝えることも重要です。

事例 78

延長保育の時間におやつを食べて

年齢・性別 : 1歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 卵を使用したプリン

症状 : じんま疹

経過 : 延長保育の時間におやつが出ました。担任の先生は食物アレルギーについて理解していましたが、そのときは別の先生が担当していました。担任でない先生は児の卵アレルギーのことを聞いておらず、卵を使用したプリンをおやつで与えてしまい、食べて児は全身にじんま疹が出現しました。

解説 : 掲示板には食物アレルギー児の情報が記載されていましたが、直接担当の先生に伝達はなく、掲示板の確認を怠ったため、原因アレルゲン入りのおやつを渡してしまいました。

対策 : 食物アレルギーのことを掲示板に記載するだけでなく、直接しっかり伝達すること、また、配膳トレーに原因アレルゲンを記載したカードを載せることも配膳の間違いを防ぎます。食物アレルギー児のエプロンに、アレルギー情報を大きく記載するのも良い方法と考えられます。

スタッフと家族の情報共有の不足による事例

事例 79

託児所は、万全のアレルギー対応とっていたら...

年齢・性別 : 2歳 女児

アレルゲン : 卵・牛乳・ソバ・ピーナッツ

原因 : 他人のお弁当

症状 : じんま疹、咳、喘鳴

- 経過 : 母親が子育てのセミナーに出席するため、主催者側が用意した託児所に預けたとき、他人のお弁当に入っていた卵焼きを食べてアレルギー症状を起こしました。じんま疹、咳、喘鳴まで生じ、救急病院で点滴治療となりました。
- 解説 : 宅児所のルールとしては、「具なしおにぎり、お茶のみ」であったのにもかかわらず、ルールを守らない出席者がいたために起こったと考えられます。
- 対策 : 託児所に食物アレルギーの子どもの預ける時は、主催者側に伝えておく必要があります。「具なしおにぎり、お茶のみ」ルールのみで、食物アレルギー対応であると判断はできません。託児所のルールを守らない人もいるので、誤食事故が起きないように、主催者側もしっかり目を配る必要があります。

事例 80

先生が「残さないように」と言ったため...

- 年齢・性別 : 10歳 男児
- アレルゲン : キウイフルーツ
- 原因 : 給食にでたキウイフルーツ
- 症状 : 全身じんま疹、咳、喘鳴
- 経過 : 本人はキウイフルーツを食べて、喘鳴が出たことがあるため、医師からも食べないように指示されていました。しかし、先生から給食に出されたものは残さないようにと言われたため、無理に食べたところ、全身じんま疹と咳、喘鳴が出現しました。学校から救急外来へ搬送され、抗ヒスタミン薬の内服、気管支拡張剤の吸入、ステロイドの点滴注射などをして落ち着きました。
- 解説 : 保護者からの食物除去依頼書の提出も医師からの指示書もなく、学校からの聞き取りもなかったことにより、事故が起きました。
- 対策 : 専門医による正しい食物アレルギーの診断が下った場合は、医師の指示書とともに、給食対応の依頼書を提出するのが、良いでしょう。学校では、担任の先生、養護の先生、栄養士さんとの話し合いの場をつくってもらうようにして下さい。医師からのアレルギー疾患管理表も有用です。

給食センターと施設間の情報交換が不足すると

事例 81

- 年齢・性別 : 11歳 男児
- アレルゲン : ピーナッツ
- 原因 : 調味料(豆板醤)
- 症状 : じんま疹
- 経過 : いつもの業務用豆板醤が、メーカーの製造中止になり、急に別の物に変更となり、回鍋肉に使用されました。生徒が口に入れて、痛みを先生に訴えたため、学校側からの給食センターへの問い合わせの結果、ピーナッツオイルが使用されていることがわかりました。

解説 : いつも給食で使っている業務用豆板醤のメーカーが変更になってその変更先のメーカーのものにピーナッツオイルが入っていたため誤食事故を起こした症例です。

対策 : 給食で使用の食品メーカーが変わる際には、少量しか使わない調味料ひとつにしても必ず連絡がもらえるように学校の先生に事前にお問い合わせしておきましょう。

学校側も、アレルギー物質表示を確認して、保護者に連絡することが重要です。

3、食事（給食・おやつ）メニューや食事中におきた事例

献立の確認は複数の人で行ったほうがよい

事例 82

お母さんが「オムレツ」を見落としちゃった！

年齢・性別 : 7歳 女兒

アレルギー : 卵

原因 : 学校給食のオムレツ

症状 : じんま疹、皮膚のかゆみ、口唇・口腔の違和感

経過 : 学給食のオムレツを1口食べてしまいました。5分以内に、じんま疹、皮膚のかゆみ、口唇、口腔のピリピリ感があり、本人がすぐに吐きだして、口の中を洗ったため、大事には至りませんでした。

解説 : 卵アレルギーがあるため、給食のメニューで卵料理が出る場合は、母親が代替食を持参することになっていましたが、母親がメニューを見落とし、代替食品を持たせなかったため、本人は配膳されたまま食べてしまいました。担任の先生も、この児の食物アレルギーに対して理解が不十分で、給食内容も母親まかせで、注意を払っていませんでした。

対策 : 誤食事故を防ぐには、二重、三重のチェックが必要です。給食対応は母親まかせではなく、学校全体で食物アレルギー児を把握し、注意しなければなりません。

事例 83

給食で出されたキムチでじんま疹が...

年齢・性別 : 9歳 女兒

アレルギー : ゴマ

原因 : キムチ

症状 : じんま疹

経過 : 給食で出されたキムチを食べたところじんま疹が出ました。献立表にはゴマの表示は無く、除去指定ですが配膳されていました。後で確認したところゴマが入っていることが判明しました。

解説 : ゴマ除去と伝えてありましたが、献立の原材料にゴマの表示がなかったため家族は気がつきませんでした。

対策 : ゴマは表示の対象ではありませんが、ゴマアレルギー症例が増えてきています。ゴマアレルギーであることを伝え、出来れば原材料にゴマも記載してもらおうようにしましょう。

事例 84

食材がよくわからない料理だったのだけど...

年齢・性別 : 1歳 女児

アレルゲン : ゴマ

原因 : 豆腐チャンプルー

症状 : じんま疹、目のかゆみ、眼球充血、喘鳴

経過 : 月初めに、献立表をもらい、除去をしてもらう料理をチェックし、提出していました。食材の中には、ゴマ油を使用しているか、使用していないかわからなかったため、除去をチェックせずに提出してしまいました。残念なことにゴマ油が混入しており食べた直後よりじんま疹、目のかゆみ、眼球結膜充血、喘鳴まで生じてしまい病院を受診しました。

解説 : わからない食材の部分を、しっかりと確かめなかったために誤食してしまいました。

対策 : 献立表をチェックして、アレルゲンかどうか、わからない食材が使用されている場合は栄養士さん、調理師さんに必ず確かめるようにしてください。原因アレルゲンが入っているかどうかわからない料理は原則として除去する方が安全です。

食事中的観察を怠ると

事例 85

友達からおやつをもらってしまって...

年齢・性別 : 3歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : 牛乳入りのアメ

症状 : じんま疹

経過 : 園が主催のサマーキャンプの帰りのバスの中で、おやつタイムとなり、たまたま隣の席の友達が、持参していたおやつ(牛乳入りのアメ)を牛乳アレルギーの友達にあげてしまい、食べたアレルギー児はじんま疹が出現しました。

対策 : 食物アレルギーを理解できない年齢では起こりやすい事故です。おやつタイムの間も、園児の観察が大切です。

事例 86

園でおかわりのシチューを食べて...

年齢・性別 : 3歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : おかわりのシチュー

症状 : じんま疹、嘔吐、腹痛

経過 : 園では牛乳除去食となっていました。牛乳除去のシチューを食べた後、お代わりをしました。そのとき、誤って牛乳除去でないシチューをおかわりで食べさせてしまいました。食べ終えた直

後に腹痛を訴え、嘔吐し、全身にじんま疹が出ました。母親と連絡をとり、主治医の病院に搬送し、ステロイドの点滴注射等の処置で症状は軽快しましたが、大事をとってその日は入院することになりました。

解説 : 牛乳入りも、牛乳除去のシチューも見た目はまったく区別がつかないため、除去食は色の違うお皿とスプーンが使用されていましたが、お代わり用は、お皿の色は除去されていないものと同じ色で、スプーンのみ、色を変えてあったそうです。そのため、除去されていないシチューが間違っ
て与えられてしまいました。

対策 : 普通食と除去食とを誰がみても区別できるように、除去したアレルゲンを明記したカードをつけるべきです。色をかえたり、スプーンの形を違えたりするだけでは、区別のルールを知らない
スタッフには判断できません。

配膳する時は、指差し呼称で確認することも大切です。

4、給食以外の学習活動の事例

事例 87

しゃっくりが止まらなかったので友達が麦茶をくれました、そしたら...

年齢・性別 : 3歳 男児

アレルゲン : 大麦

原因 : 麦茶

症状 : じんま疹

経過 : 園で遊んでいるとき、しゃっくりがとまらず困っていました。そのとき、一緒に遊んでいた友
達が、親切に、自分の持っている麦茶をくれました。麦茶を飲んだところ、全身にじんま疹が出
ました。

解説 : 自由遊び中で、先生の目が行き届かないときに起こりました。また、食事の時間ではなく、遊
びの時間だったため、先生も誤食の危険を予測していなかったと思われます。麦茶は大麦アレル
ギーがあっても多くの患児は飲むことができますが、大麦アレルギーの強い患児はアレルギーを
引き起こすことがあります。

対策 : 園のスタッフ全員が食物アレルギーのことを把握し、食事の時間以外も、目を配ると同時に、
他の園児にも食べられないものがあることを知ってもらい、飲み物や食べ物の交換をしないよう
に説明することが大切です。

事例 88

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : お泊まり保育中のレストランでの代替食

経過 : お泊り保育に行きました。幼稚園の園長先生と食事
で打合せを行い、夕食は除去食の予定でしたが、宿泊先のレストランが配慮して出した代替食を食べたところじんま疹が出現しました。母
親から症状出現時に飲ませるように渡されていた抗ヒスタミン薬で症状は軽快しました。

- 解説 : 宿泊先のレストラン側としては、牛乳の加工食品ではアレルギーは起きないものと考えていたため、せつかくの配慮が事故となってしまいました。安易な代替食は、提供される側もする側も慎むべきです。
- 対策 : 代替食の場合は、事前にメニューの確認と打ち合わせを行いましょう。

事例 89

家庭科の調理実習でのとき

- 年齢・性別 : 12歳 男児
- アレルゲン : 卵、牛乳、小麦、バナナ、ココア
- 原因 : マフィン
- 症状 : のどの痛み
- 経過 : 家庭科の調理実習でマフィンを作りました。卵、牛乳、小麦、バナナ、ココアを使用し、オーブンで焼きました。きれいな焼き色になり、先生の指示のもと、取り出し、食べたところ、30分後にのどが痛くなりました。

- 解説 : 今まで食べて症状がなかったのに、特に注意を払っていませんでした。今回、加熱が十分にされていなかったため、症状が出現した可能性があります。
- 対策 : 十分に加熱した食品を食べて異常がない場合でも、今回の事例のように加熱が不十分だったりすると症状が出る場合があります。また、調理中に（調理中に使った原材料の後片づけが不十分であれば調理後に）原因食品を吸入したり、接触によってもアレルギー症状を起こすこともあります。

まとめ 園・学校・託児所

個々の園・学校・託児所に適した「食物アレルギー対応マニュアル」を作成しておきましょう

1,スタッフへの食物アレルギー研修

施設に食物アレルギーの子どもがいるならば、スタッフみんなで食物アレルギーの学習をしましょう

参考書；学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（平成 20 年；日本学校保健会）

よくわかるやさしく作れるアレルギー対応給食（平成 23 年；NPO 法人アレルギー支援ネットワーク）

ぜん息予防のための食物アレルギー基礎知識（平成 23 年；環境再生保全機構）

保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（平成 23 年；厚生労働省）

食物アレルギー診療ガイドライン 2012（平成 23 年；日本小児アレルギー学会）

食物アレルギーひやりはっと事例集 2012

2, スタッフ間や保護者とアレルギー情報の共有をしましょう

施設内スタッフ間で情報共有しましょう

- ・事前に患児の原因食物、除去の程度、症状を全員で把握(前頁の管理指導表を利用)
- ・医師からの診断書は定期的に見直す
- ・スタッフ間で患児名と原因食物の情報を共有する

保護者と情報共有しましょう

- ・患児の原因食物、除去の程度、症状を聞いておく(前頁の管理指導表を利用)
- ・医師からの診断書は定期的提出してもらう

給食センターと情報共有しましょう

- ・給食センターは、アレルゲンと関連する可能性のある食品について製造会社（メーカー）などが変更になった際には、原材料をメーカーに確認し施設にも連絡する

3,食事について

除去食を提供するなら

- ・施設のルールを決める（例えば、個別に対応する あるいは卵は全員に出さないなど）
- ・多人数の施設ではできるだけシンプルな除去にする；食品項目別（家庭での除去食とは異なるのもやむを得ない）。
- ・園児・児童で個々の除去程度に応じて、別々の対応を行う施設は、事故が起きやすいので特に注意する

献立作成、調理の際の注意点

家族に

- ・給食の献立や原材料を提供してチェックをしてもらう

食事スタッフは

- ・食品表示を必ずチェックする
- ・除去食に使う代替食品の一覧表を作成する
- ・除去食用のレシピを揃える
- ・できたら除去食を作るための専用の食器を準備する
- ・献立の記録を残す

配膳時 誤りによる事故発生の防止

- ・メニューを記載したカードを配膳盆に載せ簡単に料理内容を確認できるようにする
- ・調理時、配膳時、責任者が必ずメニューを確認する（指差し呼称確認）
- ・除去食から先に配る

食事中

- ・食事中ならびに食事後（後片付けを含めて）の観察を怠らない

4, 食事以外の時間

- ・食物アレルギーが含まれる教材は使わない。必要ならば活動内容を見直す。
 - 活動；ピーナッツ 豆まき、そば打ち体験、うどん作り体験、調理実習
 - 図工；卵の殻を使った工作、小麦粘土
 - 食事後；牛乳パック、皿などの迅速な回収と子どもの手が届かない保管場所
 - 清掃；牛乳などが付着した雑巾の管理
 - 寝室；そば殻枕
- *ラテックスアレルギー患者が参加している時には、ゴム製品にも配慮；ゴム風船
- *ハチアアレルギー；エピペン[®]の携帯
- ・お泊まり保育などで、食事を出すなら事前に家族やスタッフと打ち合わせが必要

5, アナフィラキシーなどアレルギー症状出現時の対応のシミュレーションをしておく

- ・家族への連絡方法
- ・救急病院への連絡先はあらかじめ家族と決めておく
- ・内服のタイミングやエピペン[®]使用のタイミング
- ・スタッフのエピペン[®]実技講習など

6, 心理的、社会的配慮

- ・保護者、医療従事者連携と患児への励まし
- ・異なった食事内容でも楽しく食べられる雰囲気作り
- ・年齢に応じて：自己管理能力の育成または、周りの友達が理解し協力できる体制づくり
- ・回避のための教育：食品の見分け方
- ・アレルギー食品が提供された時の回避の方法
- ・アレルギー反応の出現時の対応

上記以外の園・託児所での注意点

- ・食物アレルギーは乳幼児期に多いため、園や託児所で預かる年齢は食物アレルギーが多い。
- ・年齢的に未摂取の食品が多く、そのためまだ原因食品と診断がついていないものもあるため、初めて食べる食品でアレルギーを起こすことがある。

外食（ホテル・レストラン）

1、利用する側の事前の確認不足

事例 90

レストランの外食で、鴨の肉だからよいと思ったら...

年齢・性別 : 1 歳 男児

アレルゲン : 卵、牛乳

原因 : 合鴨のロースのソテー

症状 : 顔面の腫れと結膜の浮腫

経過 : お父さんが注文した合鴨のロースのソテーを子供が欲しがったので、鴨肉だから大丈夫だと思って1切れだけあげました。すると、なめただけですぐに泣き出し、数分で顔が大きく腫れ上がり、目の白いところが「どろっ」として「ぶよぶよ」になってしまいました。すぐに手持ちの抗ヒスタミン薬を飲ませ、病院も受診しことなきを得ました。

解説 : 合鴨のロースのソテーのソースに卵とバターが使用してありました。

対策 : レストランでは料理に使用している材料の表示義務はありません。注文の際に、必ず食物アレルギーの使用や混入がないか、確認しましょう。もちろん、同じテーブルの人全員の料理も確認が必要です

事例 91

こじゃれたお寿司屋さんで

年齢・性別 : 9 歳 女児

アレルゲン : 卵

原因 : イカの塩焼き

症状 : 口唇の痛みと腫れ、のどの違和感、じんま疹

経過 : 地方に家族で旅行にいき、イカの塩焼きを頼みました。ところが、食べた直後から唇が痛い、のどにおかしな感じがしましたが、せつかく旅行なので食べ続けました。しばらくすると、唇が腫れあがり、全身にじんま疹が出ました。お母さんが、アレルギー症状に気がつき、旅行用にもっていたアレルギーの薬を服用し、しばらくして落ち着きました。

解説 : 実は、照りを出すためにイカの表面に塗った卵白が原因でした。旅行でもあり、いつもより気をつけていたのですが、初めて入ったお店でもあり、原因アレルゲンの使用について聞くのをつい遠慮してしまいました。

対策 : お寿司屋さんでも、思わぬアレルゲンが混入します。卵焼きはチェーン店の場合はセントラル加工で工場生産されていますから、パッケージに表示がありますので、表示の確認をお願いできるかもしれませんが、店頭で実際に焼く場合は、ふんわりさせるために牛乳やバターや生クリームが入っていることもあります。また、調理する器具の洗浄も不十分な場合アレルゲンの混入もありえます。鉄板焼では、洗浄は閉店間際しかしないと考えたほうがよいと思います。和食だから安心とはいいきれません。お店によっては、職人かたぎで、お願いや細かい確認がたくさんあると、不機嫌になる大将もいるかもしれませんが、食物アレルギーのための除去食品を

はっきり言った方が、お互いに気分よく食事をするができるかもしれません。

事例 92

旅行先の豆腐とは？

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルギー : ピーナッツ

原因 : ジーマミ豆腐

症状 : じんま疹 咳 喘鳴

経過 : 沖縄旅行の夕食で、ジーマミ豆腐を食べました。初めて食べる食感で、四角い形は同じであり、大豆でできたものと思い、大丈夫と思い食べさせたら、食べた直後から全身が真赤になり、咳だけではなく 喘鳴が出現し、ホテルの人に救急車を呼んでもらい救急病院へと搬送されました。アドレナリンの筋肉注射とステロイドの点滴で症状は軽快しましたが、経過観察で、翌日の朝まで1泊入院となりました。

解説 : ジーマミ豆腐は大豆ではなくピーナッツでできたものとは知らなかったために起きました。エピペン[®]など緊急時の薬を携帯しており、迅速に対処しておれば、もっと軽症で済んだかもしれません。

対策 : 土地の名産品を食べることは旅行の楽しみのひとつですが、アレルギー症状を起こすことも想定し、事前に近くにある医療機関の確認や、保険証も忘れずに持って行きましょう。地方の方言は聞き取りにくいこともあり、包装されていない食品はとくに原材料の確認が難しいため注意が必要です。他にも、豆腐の形をしています、「ゴマ豆腐」という名前の（練りゴマを牛乳と葛で固めた）商品でアナフィラキシーを起こした患者もいます。豆腐の形をしていると、大豆と考えますが、思わぬ重篤な症状が出る場合があります。注意が必要です。

事例 93

そばを扱っているうどん屋さんで、うどんを注文したけれど

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルギー : そば

原因 : きつねうどん

症状 : 嘔吐

経過 : ソバアレルギーはあったのですが、お店のメニューにはアレルギーの成分の表示がしてあったので、安心してうどん屋さんに入りました。メニューには、調理場での混入に関して記載がないので、十分注意がされていると思いました。注文したきつねうどんを食べて10分ぐらいしてから、口元をかゆがりだし、咳、鼻汁も出て、嘔吐しました。嘔吐してすこし落ち着いてから手持ちのステロイドの内服をして病院に向かいました。

解説 : うどん屋さんですが、そばも取り扱っていました。うどんもソバも同じ釜でゆでていました。そのためきつねうどんにソバの成分が混入したのが原因です。

対策 : ソバアレルギーの場合は、ゆで汁を介しての、微量の混入でも重篤な症状を引き起こすことがあります。そばアレルギーの患者さんはそばも扱ううどん屋さんには入らない方が無難です。

2、食事を提供する側の問題

スタッフの食物アレルギーに関する知識不足

事例 94

フライドポテトに小麦粉が...

年齢・性別 : 3歳 男児

アレルゲン : 小麦

原因 : フライドポテトのころも

症状 : じんま疹と咳

経過 : 息子が『ハンバーガーのお店』で、ジュースとフライドポテトを食べたいと言いました。店員さんに、口頭でフライドポテトの原材料を確認したところ、「じゃがいも、塩、油のみ」とのことだったので、食べさせたところ、すぐに咳き込み始め、じんま疹が口周囲から全身にひろがりました。抗ヒスタミン薬をのませて、2時間ほどで治まりました。後日お店に確認したところ、実は、小麦粉がまぶしてあったとのことでした。

解説 : ポテトに振りかけてあった、小麦による症状の誘発です。

対策 : お店によって、調理品にいろいろ、手を加えている場合があります。各々お店で、アレルギーの原因となるものが、原材料以外にも使用していないか確認する。混入していないことが確実でなければ食べないことです。

事例 95

レストランで、頼んだものは...

年齢・性別 : 3歳 女児

原因 : 牛乳

症状 : じんま疹、咳、鼻水

経過 : 牛乳アレルギーはあったのですが、レストランのメニューにはアレルギーの成分の表示がしてあったので、安心してお店に入りました。メニューの表示だけでは心配で、店員さんにも確認して『はいっていませんよ』とのことでお子様カレーライスを頼みました。ところが、食べて10分ぐらいしてから、口元をかゆがりだし、鼻水と咳もてきました。もしかしてアレルギーと思い、手持ちの抗アレルギー剤を内服させて症状は軽快しました。

解説 : カレーのルーに脱脂粉乳が入っていました。しかし、調理の行程では牛乳は入れていないのでメニューには牛乳の表示はありませんでした。

対策 : アレルギーの成分の表示義務は個別に包装された加工食品にはありますが、レストランや店頭販売の食品には、表示義務はありません。お店のサービスも向上してきており、親切心から表示している場合もありますが、個別の材料までしっかり吟味することは難しいかもしれません。微量でもアレルギー症状を起こす患者は、調理の行程での混入する微量のアレルゲンにも注意が必

要です。調理のプロたちは、包丁などはフキンで少し拭いただけで、次の作業に素早く移ることもしばしばです。レストランなどではアレルゲンの混入が ocorrência やすいと考えて下さい。アレルギー症状が出た時に適切に対応できるように、緊急時薬を携帯することが必要です。

事例 96

牛乳アレルギー用ミルクのはずなのに...

年齢・性別 : 3歳 女児

アレルゲン : 牛乳

原因 : クリームシチュー

症状 : じんま疹、口唇の浮腫、咳

経過 : レストランで「牛乳アレルギー用ミルク」を使用したクリームシチューと表示されていたため注文しました。ところが、食べた直後にじんま疹と口唇の浮腫、咳が出てしまいました。薬を飲んで、すぐ主治医を受診して、点滴等の処置で症状は軽快しました。

解説 : レストランが『ペプチドミルク』を牛乳アレルギー用ミルクと勘違いしていました。

対策 : レストランなどの外食産業は、アレルギー対応を銘打つならば、食物アレルギーに対する十分な知識をもつことが必要です。アレルギー対応マニュアルを作成して下さい。メニュー作成にあたっては、アレルギー専門医と相談するのも良いでしょう。

事例 97

卵を切った包丁で、フルーツをカットした???

年齢・性別 : 4歳 男児

アレルゲン : 卵

原因 : 調理場での卵の混入

症状 : じんま疹と咳、喘鳴、呼吸困難

経過 : 友人の家族と、ファミリーレストランにランチに行きました。友人が卵入りのミックスサンドを注文しました。息子は、卵アレルギーがあるため、カットしたフルーツを頼みました。息子はカットされたリンゴを食べた直後から、咳が出て、じんま疹が急に全身にひろがり、急いでかかりつけ医を受診し、点滴などの処置で落ち着きました。

解説 : サンドイッチ用の卵を切った、同じ包丁を洗っただけで、フルーツをカットしたために起きた事例です

対策 : 極少量の摂取でも、症状が出るような食物アレルギー児の場合、調理器具による混入まで配慮した店で食事をしなければなりません。微量混入まで配慮してくれるお店をみつけましょう。アナフィラキシーのような重篤なアレルギー症状を経験したことのある症例は、いつでもどこでもアレルギー症状に対処できるように、エピペン[®]を処方してもらい（保険適応が認められました）、所持すべきです。

スタッフの情報共有不足

事例 98

アレルギー対応食のレストランで何度も確認したのに...

年齢・性別 : 7歳 女児

アレルゲン : 卵、牛乳

原因 : シャーベット

症状 : アナフィラキシー

経過 : アレルギー食対応のレストランに、電話で卵と乳成分の除去が可能か確認して出かけました。デザートにゆずシャーベットが出たので、再度、卵、乳成分が含まれていないことを聞いたところ、「中の者に確認したので大丈夫です」と回答されたので、安心して食べました。すると、食べた直後から、のどや唇がおかしいと言い出し、口唇周囲に数個のじんま疹が出現、手持ちの抗ヒスタミン薬では治まらず、そのうちに顔が紅潮し目が充血し、咳と喘鳴まで出現しました。ステロイド薬を追加内服し、タクシーで病院へ行きました。

解説 : 複数の要因が重なり今回のようなことが起こったと考えます。

① シャーベット: シャーベットには、牛乳、卵白やゼラチンなどが使用されていることが多く、今回も乳製品が含まれていました。

② レストランの従業員が確認した厨房には、唯一のアレルギー調理担当者が不在で、アレルギーに詳しくないスタッフが大丈夫と判断したために事故が生じたことがわかりました。

事例 99

ウインナーにチーズが...

年齢・性別 : 5歳 男児

アレルゲン : 牛乳

原因 : チーズ入りウインナー

症状 : じんま疹

経過 : 温泉に行くことになり、牛乳アレルギーがあることを事前に、旅館と除去食の打ち合わせも済ませていました。ところが当日になって使用している食品の変更がありました。食事に出たウインナーを食べたところ、30分ぐらいして口に中がぴりぴりすると泣きだして、その後、体や顔が赤く腫れて1時間くらいでおさまりました。

対策 : このような店には2度と行かない。店主に申し入れることも

解説 : 除去食の打ち合わせは旅館のフロント担当の人とだけで、フロントの人がメニューを確認し、除去食と判断していました。お子様メニューのウインナーはチーズ入りでしたが、フロントの人はそこまでは知りませんでした。調理担当の人は食物アレルギーのことはまったく知らされておらず、子ども用にチーズ入りのウインナーを出しました。

対策 : 外食はかなり、リスクがあると認識する必要があります。

極微量で発症し、しかも重篤な症状を呈する食物アレルギー患者は食物アレルギーに対して配慮がないレストランや旅館では食事しない方が安全です。事前に食物アレルギー対応について確認

しましょう。

ポイント

- 1) 原材料を記載した除去食のメニューがあり、事前にチェックできる。
- 2) 除去食用調理スペースが別の場所に確保してある。
- 3) 専用の調理器具を使用している。
- 4) 担当責任者が決まっている。

まとめ 外食（ホテル・レストラン）

患者側の対策：

利用する店の情報を得る

- ・外食はリスクが高いため利用前にアレルギー食を提供しているレストラン（ホテル）がどうかインターネットなどの情報を利用して確認する。

誤食時の対応として、

- ・内服薬（抗ヒスタミン薬、内服用ステロイド薬）やエピペン[®]、気管支拡張薬などの準備
- ・アナフィラキシーのリスクがある患者は、発症時に行くことができる救急病院を確認する。

レストラン側の対策：

事前対応

- ・アレルギー担当者が複数いることが望ましい
- ・アレルギー対応食のメニューは原材料まで患者に分かりやすく記載する
- ・食物アレルギー患者対応マニュアルがある
スタッフへの食物アレルギーの教育
（代替え食や混入（コンタミ）など、また微量で誘発される症例がいること理解する：

参考図書；前述

- ・誘発症状が出た時のスタッフの対応を決めておく

予約時

- ・アレルギー食の対応が可能であると判断した患者だけ予約を受ける
- ・除去食メニューの原材料まで FAX などを利用して連絡しておく
- ・予約確定後、除去食メニューの材料を準備
- ・スタッフ全員が患者情報やメニューを把握できるようにしておく（情報の共有）
- ・アレルギー担当者の名前の紹介

来店時

- ・当日のアレルギー担当者の紹介
- ・配膳前にメニューの再確認（材料を記入したメニュー）家族と一緒に
- ・調理器具や食器の区別は厳格に、調理は別のコーナーで行う

課外活動（塾、祭り、キャンプ）

1、学習塾

事例 100

ご褒美にもらったアメにアレルギー...

年齢・性別 : 8歳 男児

アレルギー : 牛乳

原因 : アメ（いちごミルク）

症状 : のどの痛み、咳込み、喘鳴

経過 : 書道塾で、ご褒美にアメをもらいました。帰宅途中で口に入れて直ぐ違和感があり、はき出しましたが、のどの痛み、咳込み、喘鳴が起きました。自宅でインタールの吸入をしましたが変わりなく、病院へ行き入院となりました。

解説 : このアメがいちごミルクでした。母親から塾の先生に、牛乳アレルギーであることを知らせてなかったためにミルクの入った飴が配られました。また、インタールは喘息発作が誘発されたときに使用しても効果はなく、喘息発作予防の目的で非発作の時に毎日使用するものです。

対策 : おやつも含め食べ物を提供する可能性のある施設の担当者は生徒の食物アレルギー情報を入手すべきです。

事例 101

ピーナッツは赤い？

年齢・性別 : 14歳 男子

アレルギー : ピーナッツ

原因 : クッキー

症状 : じんま疹、咳

経過 : 塾から帰る途中に塾で配られたクッキーを食べました。クッキーの中に赤い豆状のものがあつたが、小豆だと思ったので、全部食べたところじんま疹と咳が出現しました。

解説 : 本人はピーナッツアレルギーということは十分知っていたが、殻付きのピーナッツか白いピーナッツの状態しか知らなかったため、赤い薄皮付きのものはピーナッツだと思わなかったために起きた事例。

対策 : 上記事例（事例 100）の対策に加え、ピーナッツを含む食品についての情報を本人に学習してもらうことも必要です。

2、お祭り

事例 102

五平もちが卵いり？

年齢・性別 : 6歳 男児

アレルギー : 卵

原因	: 五平もち
症状	: 嘔吐
経過	: 友人に、地元のお祭りに連れて行ってもらいました。「かき氷」と「ポップコーン」だけを食べてもよいと許可しましたが、友人の子供も食物アレルギーがあり、食物アレルギーのことは分かっていると考え、特に確認しませんでした。お祭りで、五平もちを食べて、嘔吐してしまいました。
解説	: 五平もちのたれに含まれていた卵によるアレルギー症状です。
対策	: 友人を過信せず、遠慮なく知識の確認をしておく。

3、キャンプ

事例 103

カンテンなら食べられたのに...

年齢・性別	: 10歳 男子
アレルゲン	: ゼラチン
原因	: ようかん
症状	: アナフィラキシー
経過	: 班のリーダーが看護師でしたので、子供のゼラチンアレルギーのことは伝えてありました。ようかんにはゼラチンの代わりに寒天を使用する予定でした。しかし、食べている途中から咳が出はじめ、全身のじんま疹が出たため、キャンプ地から連絡があり、電話で手持ちの内服を飲んで近くの病院を受診させました。病院についたころには症状は軽くなっていたようです。
解説	: 材料である寒天を買出しに行ったはずの買出し当番と調理当番が、十分に情報を把握しておらず、粉ゼラチンを買ってきて調理してしまいました。
対策	: キャンプのリーダーは、食物アレルギーの子どもを参加させる場合には、自分だけではなく調理当番や買出し当番まで、参加スタッフ全員に話が伝わるように事前に確認しておくべきです（情報の共有化）。また、参加するスタッフへの食物アレルギーに関する教育も必要です。

事例 104

フレンチトーストは卵いり？

年齢・性別	: 11歳 男子
アレルゲン	: 卵
原因	: フレンチトースト
症状	: じんま疹、嘔気、口腔違和感
経過	: ボーイスカウトのキャンプに参加。昼食に全員でフレンチトーストを焼いて食べた。しかし、フレンチトーストに卵を使っていることを本人(アレルギー患児)が知らずに食べ、30分で症状が認められた。症状は軽度であり、内服、エピペン®の筋肉注射を実施せずに自然に改善した。
解説	: 乳児期から卵アレルギーと診断され除去食をしていた為、卵料理や加工食品表示については本

人に教えていたが、「フレンチトースト」については知らなかった。

対策

：キャンプで作る料理を、事前に確認をする必要がある。また、キャンプ管理者へのアレルギーの周知を徹底する必要がある。

まとめ キャンプ対策

1、出発前の準備

情報入手と共有

- ・食物アレルギーの原因食品とその症状を確認する。
- ・食物だけでなく、医薬品、ラテックスについても情報を入手しておく。
- ・誘発症状に関しては、アナフィラキシーの有無や、運動との関連性について（食物依存性運動誘発アナフィラキシー）十分情報を得ておく
- ・主治医からの診断書・指示書を提出してもらう
- ・これら収集した情報をスタッフ全員が共有する
- ・個人情報には慎重な扱いが必要である。スタッフで情報共有することを保護者から同意をとる。

企画（食事情報はおやつに至るまでスタッフ全員が共有できるシステムにする）

食事班：メニュー作成時

- ・参加者の食物アレルギー情報に基づいたメニューを作成する；できれば参加者全員が同じメニューにする
 - ① 加工品はアレルギー物質食品表示をチェックして選ぶ
 - ② そば、ピーナッツ、ナッツ類を原則使わない
 - ③ 卵も使わないメニューも一考に値する
 - ④ 食物アレルギー患者用の代替食を決めておく（おやつメニューまで決めておく）
 - ⑤ できるだけシンプルな除去食にする（間違い防止のため複雑な調理法にしない）
 - ⑥ 保護者にメニューの原材料表を渡し、事前チェックを依頼する
 - ⑦ おやつを持ち込みを禁止；友達同士での交換などの恐れ

医療班による救急時対応の事前準備

- ① 緊急連絡先の確認；保護者の電話番号（自宅・携帯）、救急病院
- ② 救急時搬送する救急病院の確保
- ③ 救急医薬品の準備；
 - A 筋注用アドレナリン
 - 医師の付き添い有り；ボスミン、エピクイック
 - 医師の付き添いが無い；エピペン[®]携帯者の確認
 - B 内服ステロイド薬
 - C 抗ヒスタミン薬
- ④ 救急マニュアルの作成

施設との打ち合わせと事前調査

食事の打ち合わせ；

- ① メニュー作成
- ② 調理現場の責任者の確認
- ③ 可能ならば施設の食物アレルギー対応マニュアルの確認

施設内のチェック；自動販売機、売店

2、キャンプ出発時

- ・出発の前に、家族からの患者情報（朝のコンディション、定期内服薬使用状況）、携帯薬（緊急内服薬とそれ以外の軟膏や吸入薬）などを確認しておく。家族には食事班、医療班、キャンプ責任者、キャンプ中の緊急連絡先も伝えておく。

3、キャンプ中

医療班は救急体制の確認

- ・救急病院の電話番号は医療室の目につくところへ張っておく
- ・家族の連絡先は名札と一緒にしておき、医療室の患者ノートにも記載しておく
- ・上記準備した救急医薬品の保管場所の確認は医師、看護師が一緒に行う
- ・救急マニュアルの確認と実施

患児の監視；他の参加者からみて特別扱いにならないよう配慮が必要

- ・名札には緊急連絡先の情報、エピペン[®]携帯の有無、除去食物が一目でわかるよう配慮する
- ・子ども同士にはわからないマークをつけて、スタッフ間でマークの意味を把握する
- ・メニューを記載したカードを配膳盆に載せ簡単に料理内容を確認できるようにする
- ・調理時、配膳時、その責任者が必ずメニューを確認する
- ・食事中アレルギー児はグループリーダーや医療班スタッフの目につく場所に配置する
- ・スタッフは食事後の後片付け、食後の手あらいまで患児の観察をする
- ・食後は速やかに片付ける
- ・患児だけでなく周りの参加者にも食材が残らないようしっかり手洗いを指導する
- ・ごみ箱、食卓用の雑巾などは、子ども達の手が届かない所に置く

誤食時対処

- ・重症度の評価；アナフィラキシーは緊急対応が必要
- ・救急対応；医師、看護師による対処
 - ①皮膚についたら洗い流す。
 - ②目に入ったら目薬で洗い流す。できたらステロイド点眼薬の点眼。
 - ③下肢を高くした仰臥位をとらせる。
 - ④局所発赤・じん麻疹；
持続あるいは拡大傾向； ⇒抗ヒスタミン薬あるいはステロイド薬の内服
 - ⑤拡大傾向にあるじん麻疹、アナフィラキシー；
⇒ボスミン、エピクイック、エピペン[®]and/or ステロイド内服
⇒救急車で病院へ搬送（患者がエピペン[®]を携帯しているならば、救急救命士が注射してくれる。
救急車を呼ぶ時にその旨伝える。
- ・保護者へ連絡し、実施した対応を説明する。

旅行

事例 105

国際線機内食で、事前に卵アレルギー対策をしてくれるといったのに...

年齢・性別 : 2歳 女児

アレルゲン : 卵、牛乳

症状 : ニアミス

経過 : 旅行の前から卵除去食の手配をして、機内にも用意してありましたが、客室乗務員が理解してなくて普通食が配られました。食べる前に気がついて取り替えてもらいました。

解説 : 機内でアナフィラキシーが生じたら大変です。この例では事前に航空会社に手配をしてあったのですが、客室乗務員全員には伝わっていなかったようです。幸い母親がすぐ気づき無事に食事ができました。

対策 : 事前に航空会社に手配してある場合でも、配膳された時に再確認が必要です。

事例 105

ベジタリアンならよいと思ったら...

年齢・性別 : 3歳 女児

アレルゲン : 牛乳

症状 : ニアミス

経過 : ベジタリアンなら乳製品は除去されていると聞いたので、機内食としてベジタリアンを注文しました。しかし、配膳されたものにはチーズがついていました。食べる前に気がついて取り替えてもらいました。

解説 : ベジタリアン食でも除去される内容には差があります。

対策 : 事前に航空会社でどこまで除去してくれるのかよく確認しておきましょう。

まとめ 海外旅行

国際線アレルギー対応の案内

航空会社によってはアレルギー対応機内食を提供してくれます。事前の申し込みが必要になります。詳しくは航空会社のホームページを参照、あるいは航空会社の窓口にお問い合わせ下さい。

また、エビペン®の機内への持ち込みを希望される場合も、予約時に連絡が必要です。詳しくは マイライン 製薬株式会社 カスタマーサポートセンター0120 (933) 911 (9時~17時 土日祝日を除く) に問い合わせてください。

記入例

Certificate for the Personal Use of Medicines (薬剤証明書)

Patient's Name: Taro Nihon
(患者名)
Date of birth: JAN 1, 1950
(患者の生年月日)
Address: 1-1 Shimomeguro 1-chome, Meguro-ku, Tokyo 153-1111 ,Japan
(患者住所)

This is to confirm that I have prescribed two EpiPen® Injection 0.3mg
(2本以上のときは本数を記入)
(epinephrine injection 0.3mg) to Mr. Taro Nihon for the treatment of his
anaphylactic reaction due to insect stings.

I would like him to keep this medication on him for use as necessary.

Physician's signature: Hanako Tokyo Date: AUG 22, 2003
(医師のサイン) (記入日)

<Contact Information>

Physician's Name: Hanako Tokyo M.D.
(医師名 活字体ローマ字)
Institution / Department: Japan Hospital / Allergy - Respiratory Medicine
(医療機関名/診療科)
Address: 3-3, Shinanomachi 3-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 160-1111 ,Japan
(医療機関の住所)
TEL/FAX: 81-3-4987-1234 / 81-3-4987-5678
([国指定国際ダイヤル]+[81]+[市外局番の頭の0を外した番号]+[電話番号])

Certificate for the Personal Use of Medicines

Patient's Name: _____

Date of birth: _____

Address: _____

This is to confirm that I have prescribed _____ EpiPen[®] Injection _____ mg
(epinephrine injection _____ mg) to Mr./Mrs. _____ for
the treatment of his/her anaphylactic reaction due to insect stings / foods / drugs /
other (_____).

I would like him / her to keep this medication on him / her for use as necessary.

Physician's signature: _____ Date: _____

<Contact Information>

Physician's Name: _____

Institution / Department: _____

Address: _____

TEL/FAX: _____

震災時

1、食品の入手が困難になります

事例 106

年齢 : 2歳 宮城県
アレルゲン : 卵、牛乳、胡麻、小麦
症状 : アナフィラキシーの既往あり

震災直後の経過 : 何とか東京へ疎開しスーパーで買い物が出来たが、食物アレルギーの子どもが食べることができお菓子はほとんど残っておらず、せんべいだけでその他のお菓子は在庫がなく購入できなかった。

解説 : 災害時には食料品を含む物資がなくなります。かつ、支援物資も交通手段が悪くなるため、届きにくくなります。さらにアレルギー物資となるとなおさらです。

対策 : 日持ちのするアレルギー食品の備蓄に加え、食べられる缶詰類、スナック菓子、お菓子、レトルト（お湯がないと使えないので水も一緒にポリタンクなどに保存）のおかずやご飯など、準備しておくといよいでしょう。また、誤食の頻度が増えるため、アナフィラキシーのある患者ではエピペン®の使用法などしっかり理解しておきましょう。（参考；アレルギー患者がいる家庭が災害のために準備する備品リスト）

2-4、誤食しやすくなり、合併するアレルギーも悪化します

事例 107

年齢 : 2歳 宮城県
アレルゲン : 卵、牛乳
症状 : 湿疹や喘息の悪化

震災直後の経過 : 発災後、親戚や近所の家族と一緒に共同生活をした。その中には子どもが沢山いたので、牛乳を飲んだ手や乳製品を食べた手で触られ、徐々に湿疹が悪化していきました。また、災害ゴミの粉塵もひどく、それまでは薬が不要だった喘息が悪化し、薬がないため困ってしまいました。

解説 : 大勢の人との共同生活では、アレルギー食を作る余裕もなくなります。加えて誤食や接触による食物アレルギー症状が出やすくなります。そのため誤食時の内服を使用する場面が増えてきます。断水によって入浴ができなくなるためアトピー性皮膚炎が悪化します。埃っぽい環境下に加えタバコの煙などのため喘息発作も出やすくなります。

対策 : いつも使用する薬には名前と分量をメモしておきましょう。薬を飲ませるための飲料水も必要です。またアレルギー外来のある病院のリストの準備もあるといよいでしょう。アトピー性皮膚炎がある人は特に衣類や下着は多めに準備しておきましょう。入浴できなくても体をふけるティッシュやコットンなど、スキンケア用品の準備も必要です。停電のため電動式吸入器が使えなくなります。喘息発作時の内服薬も1週間分は準備しましょう。

5、お子さんの情報が周りの人に十分伝わりません

事例 108

年齢 性 : 3歳 新潟県

アレルゲン : 卵 小麦

症状 : 繰り返す湿疹

震災直後の経過：避難所生活で支給された食事から食べられそうなものだけ選んで食べさせていた。しかし食べられそうなものの種類が少なくなり、仕方なく天ぷらやフライの衣を剥いで食べさせていた。鶏肉料理を食べさせた時に背中に湿疹が何度か出たことがあったが、今思うと小麦がまぶしてあったのかもしれない。

解説 : 避難所生活では食物アレルギーの対応はできないことが多いです。また食物アレルギーは他の疾患に比べ軽く見られがちであり、「こんな時に贅沢を言うな」と言われたり、理不尽な対応を受けた例もあります。食物アレルギーであることを理解していない周囲の人は、アレルゲン食品を知らずに子供に渡してしまうこともあります。

対策 : 自己防衛のため、食物アレルギーであることを示すアレルギーサインプレートを準備しておきましょう。子供とはぐれてしまうことを考えて子供に持たせておきましょう。また、炊き出しなどでは遠慮せず、アレルゲンが入っていないかを調理担当者に確認し、可能なら個別のアレルギー対応調理をしてもらいましょう。周囲の人への食物アレルギーを理解してもらうために行政や一般の人にアレルギー疾患の説明パンフを配布（日本小児アレルギー学会ホームページからダウンロードできます）してもらうよう働きかけも必要です。

まとめ 震災対策

1、食品の入手が困難になる

・日持ちのするアレルギー食品の備蓄に加え、食べられる缶詰類、スナック菓子、お菓子、レトルト（お湯がないと使えないので清潔な水も一緒にポリタンクなどに保存）のおかずやご飯など、災害時に備えて日ごろから準備しておきましょう。

2、誤食を起こしやすくなる

・炊き出しなどではアレルギーが入っていないかを遠慮せず調理担当者に確認しましょう。もし可能なら個別のアレルギー対応調理をしてもらいましょう。

・食事療法の基本原則は正しい原因食品の正確な同定に基づいた必要最小限の除去です。日ごろから食べられるようになった食品の範囲をしっかりと把握しておくといいです。かかりつけの病院で、定期的に負荷試験などで確認してもらっておきましょう。

3、いつもの薬が不足する

・いつも使用する薬の名前と分量をメモしておきましょう。薬を飲ませるための飲料水も必要です。アレルギー外来のある病院のリストが役立つこともあるのでメモしておきましょう。

4、合併する喘息やアトピー性皮膚炎が悪化する（事例2、3）

気管支喘息：避難所においては、埃（寝具の埃も含む）、ダニ、ペット、煙（タバコ、炊き出し、蚊取り線香、焚火）、粉塵などの環境の悪化により発作が起きやすくなります。かつ、電気が使えないためネブライザーが使用できません。

喘息発作時用の内服薬の準備に加え、吸入器（充電できるタイプのものがよい）の定期点検も必要でしょう。

アトピー性皮膚炎：上記環境悪化に加え、断水のため体が洗えずスキンケアができなくなります。入浴できなくてもタオルや、断水時でも体をふけるティッシュやコットンなど、スキンケア用品の準備も必要です。常用している石鹸やマスク、ダニ防止シートもあると便利です。

共通する問題：薬（内服薬・軟膏）が底をついたり、紛失したりすることに加え、病院においても一時的な薬剤の不足などおこることがあります。日ごろからある程度ストックしておきましょう。

5、お子さんのアレルギー情報が周りの人に十分伝わりません

・一時的にお子さんと離れ離れになってしまう事態も起こりえます。食物アレルギーであることを示すアレルギーサインプレートとはいざという時に備えて子供に持たせておきましょう。除去食品に加え、いつも内服している薬の情報もプレートに書いておきましょう。

・周囲の人へアレルギー疾患を理解してもらうために、行政や一般の人にアレルギー疾患説明パンフレット（日本小児アレルギー学会ホームページからダウンロード可能）を配布してもらうよう働きかけも必要です。

A、アレルギー患者がいる家庭が準備すると便利な物品や情報

1、情報源

- 1、災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット（日本小児アレルギー学会ホームページがダウンロード可能）
- 2、災害援助を専門とする NPO や患者会との連絡先；電話番号、ホームページ、メールアドレス
- 3、アレルギー対応の物品が備蓄されている場所や連絡方法

2、医療・薬剤関連

- 1、かかりつけの病院． 医院名． 重要な所とその連絡先と簡単な地図
- 2、病歴などを記録したメモ
- 3、定期的に使用している薬剤の準備（疾患別にした下記に記載）最低 1 週間分
- 4、緊急時に使用する薬剤（疾患別に下記に記載）
- 5、お薬手帳

3、日用品

- 1) 懐中電灯
- 2) 小型携帯ラジオ（警報ベルつきが便利）
- 3) 乾電池
- 4) 充電器；携帯電話用、スマートフォン用など
- 5) マスク
- 6) 軍手
- 7) リュックサック
- 8) 小銭；10 円玉（電話用）
- 9) 下着一式
- 10) 防寒着
- 11) ヘルメット
- 12) 筆記用具
- 13) タオル、ティッシュ、ウェットティッシュ（できるだけ刺激の少ないもの）ポリ袋、ジップロック
- 14) 紙おむつ、生理用ナプキン（下着の代わりになる、大きな傷の手当てにも使える）
- 15) ロウソク、マッチ、ライター
- 16) 石油ストーブ

4、食料ならびに関連物品

- 1) ミネラルウォーター
- 2) 調味料； 携帯用の塩、醤油、みそ
- 3) 乾燥野菜、乾燥果物
- 4) アルファ化米
- 5) ポリタンク
- 6) カセットコンロと携帯式ガスボンベ、

- 7) 電気炊飯器、電気鍋（無水調理が可能）、電気ポット、電気コンロ、電子レンジ、オーブントースター、ホットプレート（電気は比較的早期に回復するので便利）
- 8) 紙コップ、紙皿、わりばし
- 9) ラップ、アルミホイル

B、食物アレルギー患者がいる家庭が準備すると便利な物品や情報

1、アレルギー対応食品が備蓄されている場所の地図と連絡方法

2、誤食時の緊急薬（抗ヒスタミン薬、経口ステロイド薬、エピペン®）最低1週間分

3、アレルギー対応食品の備蓄例（できるだけ日持ちのする食料品）

自分の子どもに必要な食料品を備蓄しておきましょう

- 1) アレルギー用ミルク;基礎編参照
- 2) 低アレルギー米や低アレルギー米のレトルト食品
- 3) アレルギー対応アルファ化米（特定原材料 25 品目未使用；災害備蓄用最長 5 年；米アレルギー患者は下記低アレルギー米を準備）
- 4) 米パン、米うどんなどのめん類
- 5) 缶詰類
- 6) ふりかけ、(カレーなど) レトルトのおかずやご飯（おかゆ）など
（お湯がないと使えないので清潔な水も一緒にポリタンクなどに保存）
- 7) お菓子（卵/牛乳/小麦/大豆など入っていない食品：加工品のアレルギー含有早見表から抜粋）
スナック菓子、雑穀のお菓子、干しりんごなどのお菓子、あわもち、きびもち
ひえのフリーズドライや雑穀のお餅類

4、食物アレルギーであることを周囲に知らせるアピールカードやサインプレート

5、合併するアレルギー疾患への対応

気管支喘息患者に対して

- 1、長期管理薬の備蓄；吸入ステロイド薬、ロイコトリン受容体拮抗薬など。最低1週間分。
- 2、発作時の緊急時薬（ B_2 刺激薬など）；電気が使えなくなるので内服薬の備蓄は必須
- 3、加圧式定量噴霧吸入器、スパーサーやドライパウダー吸入器（停電になっても使用可能）
- 4、インタール吸入液、メプチン吸入液（アンプル）
- 5、電動吸入器使用の場合、付属のバッテリー、シガーソケット、電池で電源をとれる物
- 6、布団シーツ・カバー
- 7、マスク

アトピー性皮膚炎患者に対して

- 1、外用薬の備蓄；保湿剤、ステロイド軟膏、タクロリムス軟膏など
- 2、常用している薬剤の備蓄；抗ヒスタミン薬
- 3、常用している石鹸
- 4、普段使用している下着、衣類
- 5、布団シーツ・カバー
- 6、スキンケア用品；ポリバケツに水を備蓄、電気ポットなど

加工食品のアレルゲン含有量早見表（レベル0はFASTKIT エライザル Ver,II（日本ハム）で測定速度以下を示す）

商品名	メーカー	規格	1個当たり重量目安	測定日	卵タンパク含有量(mg)		タンパク含有レベル		
					含有量(mg)	牛乳	小麦	大豆	
卵が入っていない加工食品									
コッペパンジャム&マーガリン	山崎製パン株式会社	1個(136g)	136g/個	※	0	7	9	5	
本仕込食パン	フジパン株式会社	6枚/袋	70g/枚	☆	0	7	8	6	
新食感宣言	山崎製パン株式会社	5枚/袋	74g/枚	※	0	7	8	4	
国産小麦食パン	山崎製パン株式会社	6枚/袋	64g/枚	※	0	7	8	0	
バリジャンスベシヤル	山崎製パン株式会社	1個(220g)	220g/個	※	0	6	9	5	
十勝バターブレッド	敷島製パン株式会社	6枚/袋	51g/枚	☆	0	6	8	6	
ヤマザキ食パン	山崎製パン株式会社	6枚/袋	60g/枚	※	0	6	8	4	
ランチパックピーナッツ	山崎製パン株式会社	2個/袋	47g/個	※	0	6	8	4	
超芳醇	山崎製パン株式会社	6枚/袋	平均66g/枚	※	0	6	8	4	
特撰超芳醇	山崎製パン株式会社	6枚/袋	平均66g/枚	※	0	6	8	4	
芳醇	山崎製パン株式会社	6枚/袋	65g/枚	※	0	6	8	4	
アンナウエファー	森永製菓株式会社	13g(1袋)52g(1箱)	3.25g/枚	☆☆☆	0	6	7	0	
うまい棒コーンポタージュ味	リスカ株式会社	6g	6g	☆☆☆	0	6	5	4	
たん右衛門 ペッパーたん	東北日本ハム株式会社	90g入り	3.8g/枚	☆☆	0	6	0	0	
チキンリンクス	日本ハム株式会社	1袋153g(標準9本)	17g/枚	☆☆	0	6	0	0	
ポークリンクス	日本ハム株式会社	1袋(136g) 標準8本	17g/枚	☆☆	0	6	0	0	
じゃがりこ チーズ	カルビー株式会社	58g	1.61g/本	☆☆☆	0	6	0	0	
じゃがりこサラダ	カルビー株式会社	60g	1.53g/本	☆☆☆	0	6	0	0	
超熟	敷島製パン株式会社	3枚	65g/枚	☆	0	5	8	4	
ビスコ(クリームサンド)	江崎グリコ株式会社	20.6g/5枚/袋	4.12g/枚	☆	0	5	7	2	
ビスコ(チョコいちご)	江崎グリコ株式会社	20.6g/5枚/袋	4.12g/枚	☆	0	5	7	2	
ブリッツロースト	江崎グリコ株式会社	70g(35gx2袋) 30本/袋	1.17g/本	☆	0	5	6	1	
おととつうすしお味	森永製菓株式会社	10g	0.41g/個	☆☆☆	0	5	5	0	
切れ目入りお弁当ウインナー	日本ハム株式会社	1袋500g 約10g/本	10g/本	☆☆	0	5	3	7	
キュービー すりおろしオニオンドレッシング	キュービー株式会社	15g/回	15g/回(1回分)	☆☆☆	0	5	2	4	
カールチーズあじ	明治製菓株式会社	72g	1.27g/個	☆☆☆	0	5	0	2	
ヨーグレット	明治製菓株式会社	28g(18粒)	1.56g/粒	☆☆	0	5	0	0	
ハイハインプレーン	亀田製菓株式会社	53g	3.4g/枚	☆☆☆	0	5	0	0	
麦のめぐみ	敷島製パン株式会社	3枚	69g/枚	☆	0	4	8	6	
ちいさなドーナツ	和光堂株式会社	30g	0.71g/個	☆☆☆	0	3	6	0	
うまい棒サマミ味	リスカ株式会社	6g	6g	☆☆☆	0	3	5	3	
うまい棒めんたい味	リスカ株式会社	6g	6g	☆☆☆	0	3	5	2	
国産鶏から揚げ	日本ハム株式会社	1袋(220g)	24.1g/個	☆☆	0	2	7	2	
ハイレモン	明治製菓株式会社	27g/18粒	1.5g/粒	☆☆☆	0	1	0	0	
卵と乳が入っていない加工食品一覧									
チャルメラ 塩	明星食品株式会社	1人前(麵90g)	麵90g	☆☆☆	0	0	9	5	
マルタイラーメン	マルタイ株式会社	1人前(麵73g)	麵73g	☆☆☆	0	0	9	4	
サッポロ一番塩らーめん	サンヨー食品株式会社	1人前(麵91g)	麵91g	☆☆☆	0	0	8	3	
チャルメラ(味噌)	明星食品株式会社	1人前(麵90g)	麵90g	☆☆☆	0	0	8	0	
スティックビスケット	和光堂株式会社	33g	1.15g/本	☆☆☆	0	0	7	0	
すき焼き麩	真田株式会社	20g	0.75g/個	☆☆☆	0	0	6	3	
こどもにやさしいポーロ	大阪前田製菓株式会社	13.1g/30粒	0.44g/粒	☆	0	0	6	0	
コンソメ	味の素株式会社	37.1g(1個5.3g)	5.3g/個	☆☆☆	0	0	5	0	
ベーキングパウダー	日清フーズ株式会社	40g(5gx8)	5g/袋	☆☆☆	0	0	4	3	
化学調味料無添加コンソメ	ネスレマニュファクチャリング株式会社	5gx8本	5g/本	☆☆☆	0	0	4	3	
ウイニーミニ	日本ハム株式会社	80g/袋(標準10本)	8g/本	☆☆	0	0	3	7	
あらびきグルメイdstステーキ	日本ハム株式会社	1パック(208g) 標準4枚	52g/枚	☆☆	0	0	3	0	
卵、乳、小麦、大豆が入っていない加工食品									
細雪	井村屋製菓株式会社	300g	300g	☆☆☆	0	0	0	9	
木綿とうふ	朝日食品工業株式会社	150g	150g	☆☆☆	0	0	0	9	
絹とうふ	朝日食品工業株式会社	150g	150g	☆☆☆	0	0	0	8	
キュービー ベビーフード(ここにこボックス ひじきの煮物弁当く大豆とひじきの煮物)	キュービー株式会社	60g/袋	60g/袋	☆☆☆	0	0	0	7	
キャベツ太郎	菓道株式会社	14g	0.92g/個	☆☆☆	0	0	0	3	
角煮	日本ハム株式会社	1袋125g	25g/個	☆☆	0	0	0	2	
卵0、乳、小麦、大豆が入っていない加工食品									
アンティエ レモン&パセリ	日本ハム株式会社	1袋(150g) 標準6本入り	25g/本	☆☆	0	0	0	0	
これは便利 ロース生ハム	日本ハム株式会社	1パック(19g) 標準4枚	4.75g/枚	☆☆	0	0	0	0	
シャウエッセン	日本ハム株式会社	1袋(138g) 標準6本	23g/本	☆☆	0	0	0	0	
森の薫りあらびきウインナー	日本ハム株式会社	1袋(92g)	15.3g/本	☆☆	0	0	0	0	
日本プレミアム 国産豚肉使用 ベーコン	日本ハム株式会社	68g/4枚	17g/枚	☆☆	0	0	0	0	
日本プレミアム 国産豚肉使用 ももハム	日本ハム株式会社	80g 標準5枚	16g/枚	☆☆	0	0	0	0	
北海道プレミアム ベーコン	日本ハム株式会社	76g/4枚	19g/枚	☆☆	0	0	0	0	
アレルギー特定原材料25品目不使用 化学調味料無添加のブイヨン	ネスレマニュファクチャリング株式会社	35g	7g/本	☆☆☆	0	0	0	0	
ウスターソース	ブルドックソース株式会社	300ml	300ml	☆☆☆	0	0	0	0	
お弁当用濃いソース	コメ株式会社	3mlx7本	3ml	☆☆☆	0	0	0	0	
さやえんどう	カルビー株式会社	26g	1.22g/個	☆☆☆	0	0	0	0	
チップスター うすしお味	ヤマザキナビスコ株式会社	50g	1.77g/枚	☆☆☆	0	0	0	0	
特選丸大豆しょうゆ	キッコーマン株式会社	50ml(5mlx10本)	5ml	☆☆☆	0	0	0	0	
キュービー ベビーフード(カボチャとサツマイモ)	キュービー株式会社	70g/個	70g/個	☆☆☆	0	0	0	0	
キュービー ベビーフード(よいこになあれ お肉と野菜のトマト煮込み)	キュービー株式会社	100g/袋	100g/袋	☆☆☆	0	0	0	0	
キュービー ベビーフード(鶏とかぼちゃのなめらかシチュー)	キュービー株式会社	160g/個	160g/個	☆☆☆	0	0	0	0	
☆:購入日 ☆2008年10月、☆☆2008年9月、☆☆☆2009年5月、☆☆☆2011年6月 ※:製造日 2008年9月下旬					数字が大きいほどアレルゲンを含む蛋白がたくさん入っています				
☆:購入日 ☆2008年10月、☆☆2008年9月、☆☆☆2009年5月、☆☆☆2011年6月 ※:製造日 2008年9月下旬									

非常時持ち出し食品参考例(各人の食物アレルギー原因食品が含まれていないことを表示で確認してから購入してください)

米	マジックライス、白ご飯のみ (米、大麦入り)	(株式会社サタケ)	0120-049-117	アレルギー特定原材料(表示義務)5品目不使用 A-Lat(永谷園)	0120-919-454		
	いそべ餅(米入り)	(東和食彩)	0120-852-836	おかかふりかけ 鮭ふりかけ			
米アレルギーがある場合	Aカットごはん ケアライス	(越後製菓) (ホリカフーズ)	0120-917-651 025-794-5536	カレーポーク		甘口 中辛	
パン	安心パン(卵、牛乳なし) (小麦入り)	(パン・アキモト)	0287-65-3352	それいけアンパンマンシリーズ カレー ハヤシ ミートソース			
ミルクアレルギー用ミルク	ニューMA-1 MA-mi ミルフィー エレメンタルフォーミュラ ペプチディエット	(森永乳業) (森永乳業) (明治) (明治) (ビスターク・スノー)	0120-303-633 0120-303-633 0120-358-369 0120-358-369 0120-241-537	野菜かんかけ丼 クマのプーさん ミッキーマウス 獣拳戦隊ゲキレンジャー カレー カレー お弁当カレー ムシキングカレー		おむすび おむすび	鮭わかめ 青菜わかめ
缶詰め	シーチキン純(きはだまぐろ) 食塩・オイル無添加	(はごろもフーズ)	0120-123-620	カレー カレー お弁当カレー ムシキングカレー		ポークあまくち 野菜・コーンあまくち ポークあまくち ポークあまくち	
アレルギー特定原材料5+表示推奨20品目不使用	おかずシリーズ ハンバーグ 肉じゃが 豚肉と里芋の煮物 さわらの味噌煮 など キッズキューピー よいこになあれ(瓶詰) かぼちゃのグラタン ひえと根菜炊き込みごはん たらと野菜のみぞれ煮 あわの海の幸がゆ 野菜のクリームシチュー 野菜とツナのあんかけ すきやき風煮 きびと野菜のグラタン 煮込みハンバーグ ツナと野菜のカレーシチュー 白身魚と根菜の煮物	(辻安全食品)	03-3391-6261	S\$B(エスピー食品株式会社) カレーの王子さま シチューの王子さま ハヤシの王子さま スープの王子さま	0120-120-671		
				キューピー キューピー瓶詰 野菜おじや おさかなと野菜のおかゆ かぼちゃのシチュー おさかなのリゾット クリームコーンドリア かれいと根菜の和風あんかけ さけ野菜雑炊 ツナマトリゾット 野菜ミックス 豆腐ときのこのドリア 中華五目がゆ 豆腐のそぼろあんかけ ツナと大根とわかめのごはん 大豆とひじきのごはん キッズキューピー 野菜たっぷりポークカレー 野菜たっぷりまぼ丼の素 野菜たっぷりぶたうま煮丼の素 野菜たっぷりさけとコーンのシチュー 野菜たっぷりツナと炒め玉ねぎのハヤシ	0120-141-122		

謝辞

皆様のお蔭で多数の患者様から集められた事例が、整理され「食物アレルギーひやりはっと事例集」を改訂することが出来ました。心から深謝します。

この冊子が食物アレルギーの患者さんやそのご家族の方、さらには、園、学校、食品を扱うレストランなど多くの方に役立ってくれることを期待しています。

事例収集に協力して頂いた組織

NPO法人アレルギー支援ネットワーク

NPO法人アレルギーを考える母の会

藤田保健衛生大学小児科免疫アレルギーリウマチ研究会

安藤仁志	飯海潔	市川陽子	犬尾千聡	宇理須厚雄
大久保悠里子	大沢香	小倉和郎	各務美智子	金森俊輔
川口博史	川田康介	久保とし子	小澤徹	児玉央
小松原亮	近藤久	近藤康人	榊原三平	鈴木聖子
高松伸枝	田中健一	柘植郁哉	辻幸余	津田こずえ
鶴田光敏	寺西映子	土岐由香里	徳田玲子	中島陽一
中原務	成瀬徳彦	野村孝泰	畑川恵子	早川洋一
平田典子	堀場史也	増田進	松浦真路	松山温子
三松高一	宮田隆夫	宮谷真正	森田豊	藪田憲治
山田一恵	山脇一夫	湯川牧子		

監修

宇理須厚雄（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院小児科 教授）


編集委員

編集長 近藤康人（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院小児科 准教授）

委員 近藤久（医療法人久愛会近藤小児科医院 院長）

山田一恵（山田医院 院長）

寺西映子（医療法人道雄会和田クリニック 院長）



科学的知見に基づく食物アレルギー患者の
安全管理と QOL 向上に関する研究
(H21- 食品 - 一般 -004)
研究代表 : 宇理須厚雄

2012年1月10日
藤田保健衛生大学 小児科
免疫アレルギーリウマチ研究会 作成